

令和 4 年度

大阪・関西万博を契機とした価値共創活動促進事業

(拡張 EXPO 共創ラボ事業)

調 査 報 告 書

令和 5 年 3 月

経済産業省 近畿経済産業局

(調査委託機関：株式会社 地域計画建築研究所)

## 目 次

|                                        |      |
|----------------------------------------|------|
| 序章 本実証・調査の概要                           | 1 P  |
| (1) 背景と目的                              |      |
| (2) 実証・調査フロー                           |      |
| 第1章 【共創活動創出事業】共創活動創出研究会及びイベントによる検証     | 4 P  |
| (1) 先行事例等の調査・整理                        |      |
| (2) 万博を契機にした「新たな共創活動に関する仮説」            |      |
| (3) 共創活動創出研究会による検討（共創活動創出イベントのポイントと設計） |      |
| (4) 共創活動創出イベントによる試行的検証                 |      |
| (5) 小括                                 |      |
| 第2章 【共創活動加速化事業】価値共創加速化研究会及びセミナーによる検証   | 20 P |
| (1) 本事業における「価値共創」とは                    |      |
| (2) 価値共創における「壁」の可視化                    |      |
| (3) 価値共創加速化研究会での検討                     |      |
| (4) 価値共創加速化公開セミナーでの検証                  |      |
| (5) 小括                                 |      |
| 第3章 今後の展開に向けて                          | 42 P |
| 資料編                                    | 43 P |

## 序章 本実証・調査の概要

---

## (1) 背景と目的

2025年に開催される大阪・関西万博（以下、万博）は、単なる大規模展示会ではなく、世界中から多くの人々が来日し、人類の課題解決を目指し、社会・経済システムを変える可能性のある、世界中が関西に注目するイベントであり、開催地の関西にとっては稀代のチャンスである。

今般の万博は「People's Living Lab」をコンセプトにした様々な共創の場でもあり、また公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会（以下、博覧会協会）では、「TEAM EXPO 2025」と称する万博と親和性の高い外部活動を登録するプログラム制度を推進している。万博を機にこのようなコンセプトが持つ精神や利点を広く応用し、関西での価値共創活動を生み出すことが関西の発展において重要である。

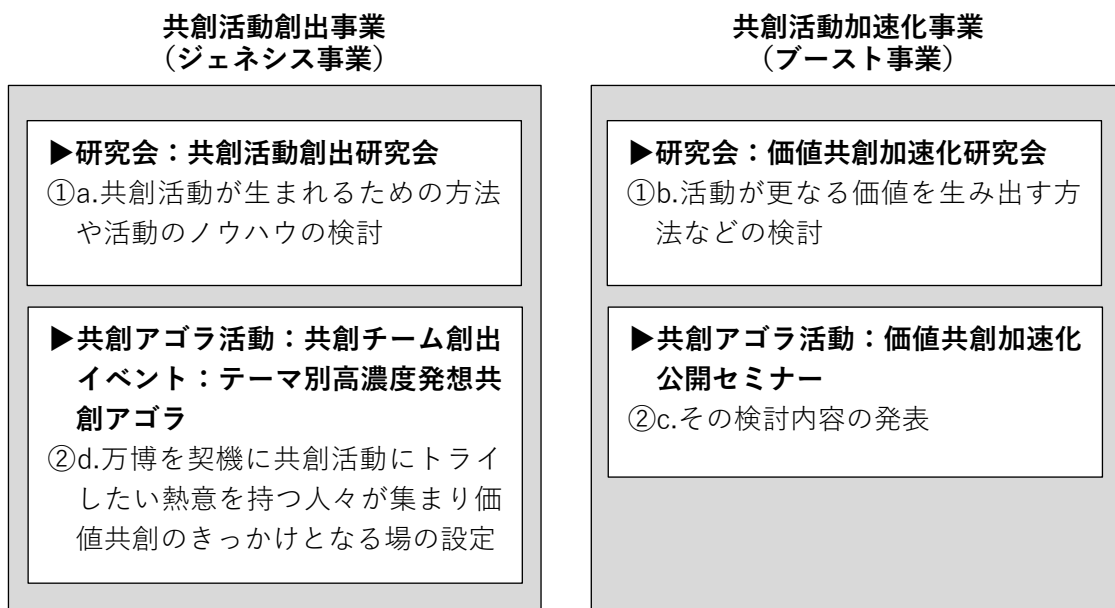
このような観点から、本事業では以下の①a/bと②c/dの取組を実施することで、万博を契機とした共創による新事業の創出環境の充実や、共創活動を検討・推進する過程で結ばれる他者との強い人的ネットワークが構築されることを目的とした。

なお、①a・②dを共創活動創出事業（以下、ジェネシス事業）として、①b・②cを共創活動加速化事業（以下、ブースト事業）として、2つの事業に分けて実施した。

①共創活動をサポートする組織の方々や有識者等による研究会において、a.共創活動が生まれるための方法や活動のノウハウの検討、b.活動が更なる価値を生み出す方法などの検討。

②加えて、c.検討内容の発表、d.万博を契機に共創活動にトライしたい熱意を持つ人々が集まり価値共創のきっかけとなる場の設定。

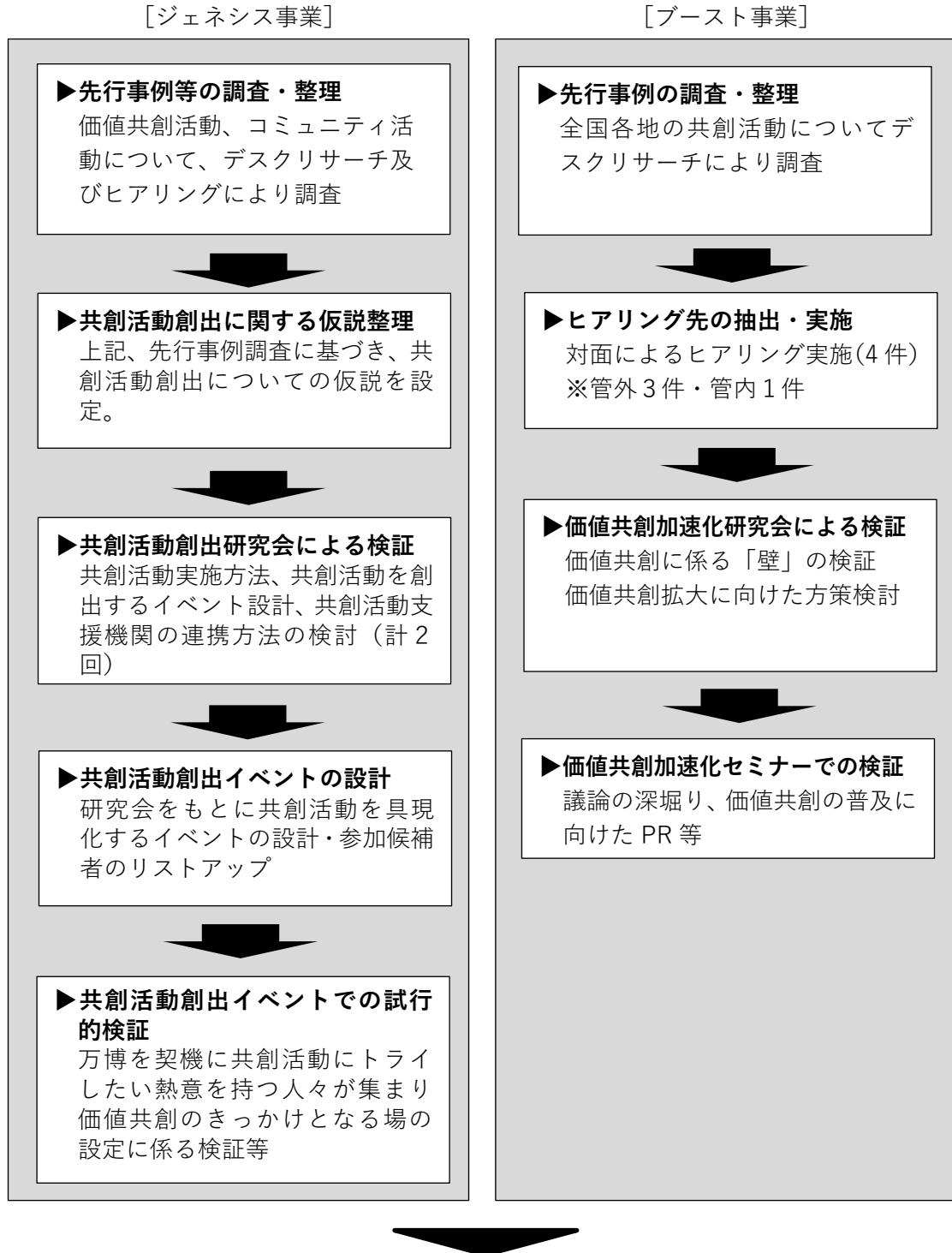
図表 1 本事業の枠組み



## (2) 実証・調査フロー

ジェネシス事業とブースト事業については、以下図表のとおり取り組んだ。

図表 2 本実証・調査の内容及びフロー



# 第 1 章【共創活動創出事業】

共創活動創出研究会及びイベントによる検証

---

## （１）先行事例等の調査・整理

### ①調査概要

関西圏を中心に活動を展開している「コミュニティ」、及び新たな共創コミュニティとして可能性が期待されている「DAO\*」の事例について、「2025 年大阪・関西万博」との連携の可能性に重点を置きながらデスクリサーチを行い、特徴的な事例を抽出し、後述する「共創活動創出研究会」実施に向けた仮説整理・検証のためにヒアリング調査を実施した。

\*DAO (Decentralized Autonomous Organization) 「分散型自律組織」：中央集権的管理者が不在で、参加者全員が平等で自由に活動可能な組織。

### 【デスクリサーチまたはヒアリング先】

多くのコミュニティ活動や DAO の取組等を縦覧し、特に以下を重点的にリサーチした。

#### ▶コミュニティ

- ・特定非営利活動法人ミラツク
- ・一般社団法人 Future Center Alliance Japan
- ・株式会社新産業文化創出研究所

#### ▶DAO

- ・株式会社ガイアックス&NPO 法人ドットジェイピー  
「日本初、既存 NPO 組織の DAO への移行」
- ・株式会社スペースデータ  
「社員 0 人！FPO 組織の DAO 化」
- ・株式会社電通グループ  
「持続可能な環境 DAO：NFT 型コレクティブ・クリエイティブ」

### ②調査整理

デスクリサーチにおける案件抽出及び、実際に取り組んでいるプレイヤーへのヒアリングをとおして、１）コミュニティ ２）DAO について明らかとなったことを整理すると以下のとおりである。

#### １）コミュニティ

ここでのコミュニティとは、一社や個人の活動ではなく、複数の組織や人材が集まって一つの旗頭（掲げる目的等）のもと、一定のテーマを希求し活動を展開するグループであり、その形態は様々なものが存在した。

#### ▶調査事例１：中心的人材のアイデア

活発に活動するコミュニティの多くは、中心となる多才な人材がユニークなアイデアを提供し、そのアイデアや実行力によりコミュニティがまとまり、相互啓発や多様な活動を展開する例が多い。

## ▶調査事例2：発想交流・関係性構築等

このようなコミュニティは、勿論、活動が深化し何らかの新たな事業が創出されるものもあるが、むしろそれぞれのアイデアの交流や様々な関係者との交流を基本とするものも多く、そのような活動は非常に有効に機能している。

## ▶調査事例3：TEAM EXPO 2025 プログラム

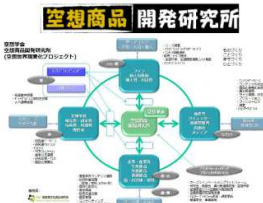
関西を中心に、民間企業やNPO法人、地域団体、自治体、大学など様々な個人・団体が活動している地域のコミュニティの多くが、博覧会協会が展開する「TEAM EXPO 2025 プログラム※」に参画するとともに、TEAM EXPO 2025 Meeting などをとおして、TEAM EXPO 2025 参画コミュニティ間の連携も図られている。

※TEAM EXPO 2025 プログラム：様々な人たちがチームとなり、多彩なチームと活動で万博とその先に未来に挑む、みんながつくる、博覧会協会が推進する参加型プログラム。万博会場内の活動に限らず、多様な活動が登録されている。

図表3 調査コミュニティの一例  
(左：事例1、右：事例2、下：事例3)

株式会社新産業文化創出研究所  
仮想の研究所で異分野が参画しプロジェクトを実現するためのプラットフォーム

▶名称：空想商品開発研究所  
空想商品開発研究所は仮想の研究所で異分野が参画しプロジェクトを実現するためのプラットフォームの呼称。



注目ポイント！

- ▶異分野連携の促進のために漫画やアニメ、SF、特撮などの空想世界のストーリー上の空想科学を現実の先端技術や社会インフラの研究者、技術者、ビジネス実務者、クリエイターと共に現実化、製品化(玩具・ゲーム含む)、また事業化していくプロジェクトである。
- ▶プロジェクトを進めるためにテーマやコンテンツごとの企画をつくり、各技術や製品ごとの研究開発支援、資金調達、実証実験支援、販路開拓、マーケティングなどのビジネスマッチングや各種支援を行う。

出所（時期：2022年11月9日時点）  
▶ <https://www.kuso-sbb.jp/>

特定非営利活動法人ミラツク  
既にある未来の可能性を実現するNPO

▶名称：未来社会のデザインをテーマに活動する連携体  
国内外のネットワーク、コミュニティの協力を得ながら、現場のリアリティと俯瞰する目を行き来するリサーチ・分析を行うことで未来の潮流を掴み、共有し、共にアイデアを生み出し共に実行することに取り組み、企業内の人材育成事業、新規事業立ち上げ伴走支援事業、大学・学術組織の社会実装支援事業、メディア・出版事業に取り組む。



注目ポイント！

- ▶活動は「構想形成ステージ」と「社会化ステージ」の2つに分かれる。「構想形成ステージ」の最初期の未来構想の段階から取り組むことで、延長上の未来から離れ、起こりうる未来に焦点を置くことで未知の領域への取り組みからブルーオーシャンへの展開を促す。また、リサーチ・情報収集とそれに続く情報基盤の生成によって、未知の事業に向けたアイデア・企画案を素早く大量に生み出すための土台を整える。
- ▶着手率の形成やその後に続く「社会化ステージ」では、ミラツクが持つさまざまな異業種・多セクターのイノベーターネットワークの協力を得ることで、ネットワーク形成の時間を短縮し、アイデアの実現に向けた素早い展開をサポートする。

出所（時期：2022年11月9日時点）  
▶ <https://emerging-futures.org/article/approach/>

### 「TEAM EXPO 2025」プログラム

●博覧会協会では、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現とSDGsの達成に貢献する万博連携共創活動を募集。

**1. 共創チャレンジ（1つ1つのアクション）**

▶自らが描く未来の実現に向けた1つ1つのアクション  
大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するため、自らが主体となって未来に向けて行動を起こしている、または行動を起こそうとしている活動

「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向けた個々の活動

**2. 共創パートナー（支援をする法人・団体）**

▶複数の共創チャレンジの創出・支援をする法人・団体  
自らのリソースを提供して共創チャレンジを生み出し、また、自らが創出した共創チャレンジや他の共創チャレンジを支援する法人・団体等のごと

共創チャレンジを創出しその活動を支援する活動

https://www.expo2025.or.jp/team/

（公社）2025年日本国際博覧会協会協議会事務局、同HP等を参考作成

## 2) DAO

日本国内ではまだ黎明期のフェーズにいる DAO については、まずは DAO の特徴を抽出し、抽出した特徴から、新たな共創活動の方法論の一つとして、DAO の特徴や機能を一部活用した、「擬似的な DAO」の運用イメージについて以下のとおりまとめた。

### ▶DAO の特徴

- ・ DAO の基本はブロックチェーン技術等を用いた分散型のコミュニティや組織。
- ・ 中央集権的な管理者がおらず、誰でも自由に活動に参加し、参加者全員が平等で活動提案可能な組織。
- ・ 運営上のルールはスマートコントラクト（自動化プログラム）で実行、ブロックチェーン技術により全てがオープンで透明性が高い組織。
- ・ メンバーはガバナンストークンと呼ばれる投票権をもった暗号資産を保有し、投票によって民主的に意思決定。組織への貢献によってもガバナンストークンを付与。トークン値上がり目的の参加もありうる。
- ・ 多くはネットワークコミュニケーションツールとして Discord などの SNS ツールを活用。

### ▶DAO の特徴から抽出した「擬似的な DAO」の要素

- ・ 組織には明確な方針・目標がある（何をする組織か）
- ・ 一定の拠出金等により組織に参加（本来の DAO は暗号資産で処理）
- ・ 組織にコンダクターはいるが多数決等による民主的なガバナンス運営
- ・ 組織はプール予算等を原資に事業を展開
- ・ 組織の定例的な処理はルールを決めるなど簡略な手続き方法とする
- ・ 参加者は擬似的な DAO として自身のビジネスアイデア等の実現を目指す
- ・ 参加者は擬似的な DAO で知識やノウハウのヒントを得ることも可能
- ・ 参加者はプール予算の一部利用について提案し参加者の同意を得る
- ・ 参加者の上記活動が成功したらプール予算を上乗せして返納
- ・ プール予算が一定を上回れば参加者に配当が支給される
- ・ SNS 等のネットワークコミュニケーションツールを活用し、相互のコミュニケーションを図るなど

## （２）万博を契機にした「新たな共創活動に関する仮説」

活発な共創活動の創出や共創活動同士の連携はどのようにすれば効率よく展開されるのか、前記先行事例の調査結果等を基に考察し、特に万博との連携やその開催パワーの活用を重視した概念を次項の共創活動創出研究会実施にあたる仮説として設定した。

### ①万博を契機にした「新たな共創活動に関する議論のための７つの仮説」

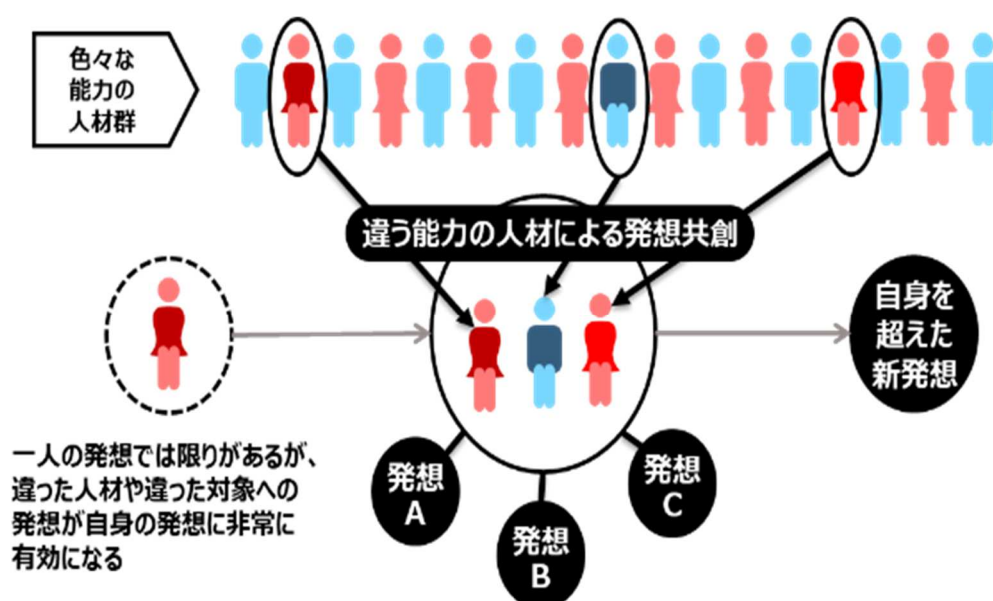
#### ▶仮説１：万博を機に「世界を変える大きな志をもった活動の検討」を志向

万博という世紀のイベントを機に、正義の大志を目標に皆で立ち向かい、世界的嵐を起こすこれまでにない共創活動（＝共創 2.0）を志向した議論が必要ではないか。

#### ▶仮説２：「コレクティブブレイン（集団脳）※」による発想共創

１人の天才によるのではなく、コレクティブブレイン（集団脳）による共創思考を用いたイノベーションの創出。個人の個性を重視したイノベーション創出志向に対し、集団脳としてのイノベーション創出は、協調やすり合わせを得意とする日本人ならではの方法論ではないか。

図表４ コレクティブブレインによる発想共創



※コレクティブブレイン（集団脳）：集団の中で情報交換するうちに、一定の確率で新たなアイデアを思いつく人が出現しイノベーションが生まれる（大集団ほど生まれやすい）。ホモサピエンスが体力的に勝るネアンデルタール人を凌駕したのは集団脳によるとも言われる。

### ▶仮説3：超異分野融合志向

例えば「新たな食」関連ビジネスの広がりを見ると、様々な産業への連鎖が考えられるのではないかな。

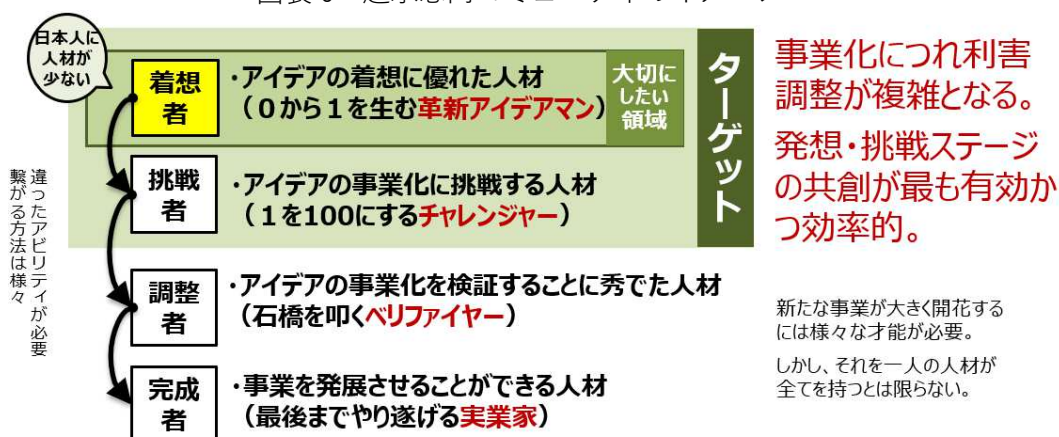
これまで関係ないと思われていた分野同士の融合が最も新鮮でありブルーオーシャンであることも考えられ、多岐に渡る超異分野産業の共創が期待される。

### ▶仮説4：起承志向コミュニティ（0→1アクション重視）

発想者・挑戦者・調整者・完成者等、それぞれの能力を有する者が役割を分担・バトンタッチすることで事業を成功に導くことが肝要であるが、事業化段階につれ利害調整等が複雑となる。

共創的な環境がうまく進展するためには、先ず、発想・挑戦ステージの共創が最も有効かつ効率的と思われ、その領域の活動に特化して検討を進めるべきではないかな。

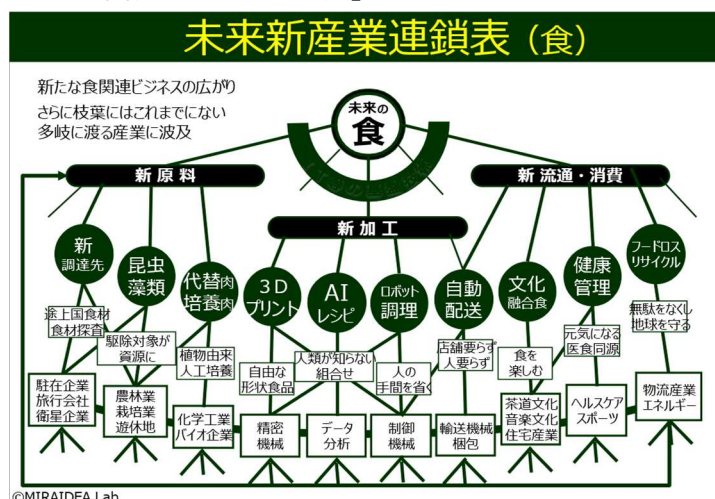
図表6 起承志向コミュニティのイメージ



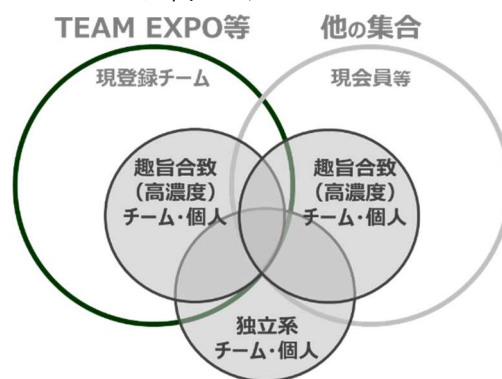
### ▶仮説5：様々な母集団のいいところ取り

また、これらの濃度を高める方法として、①様々な母集団で活躍する選りすぐりの人材を管理者等がピックアップ。②その中から検討するテーマに適した人材を選出し、濃度の高いマッチング活動を展開。③ピックアップ人材や活動での振る舞いなどから、重要人材の情報等を管理者等が共有など、様々な母集団を濃縮していいところ取りする方策が考えられるのではないかな。特に博覧会協会が実施する万博会場外での様々な活動を登録する「TEAM EXPO 2025 プログラム」は重要なファクターと考えられる。

図表5 「新たな食」関連ビジネスの一例



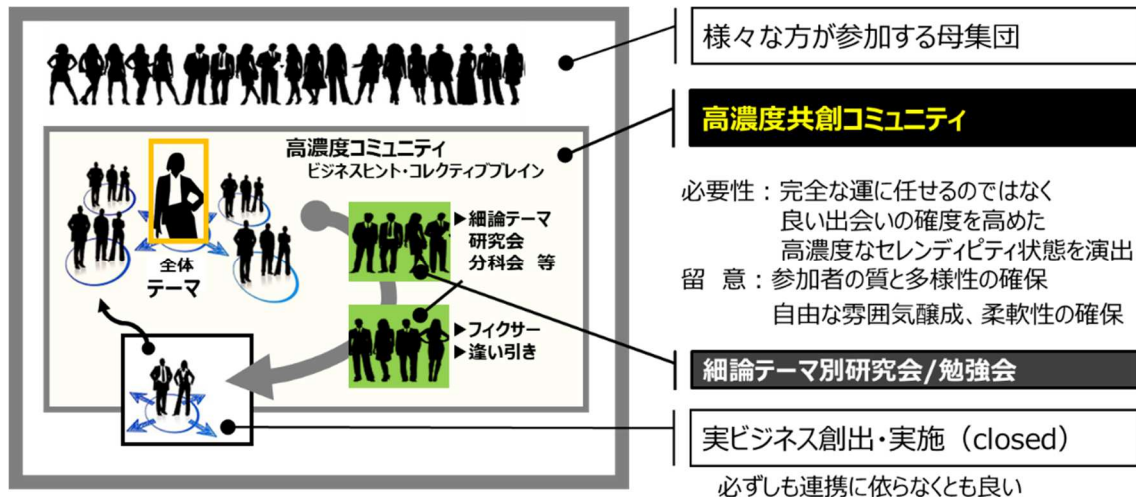
図表7 様々な母集団のいいところ取りのイメージ



## ▶仮説6：「高濃度セレンディピティ※」の実現

不特定多数に向けた単なる呼びかけで集める運任せな方法ではなく、目的濃度を高めた集団を形成し、運ではなく確度の高い高濃度セレンディピティ状態にするにはどのような方法が考えられるかを検討すべきではないか。

図表8 確度の高い高濃度セレンディピティ状態



※セレンディピティ：偶発的な出会い

## ▶仮説7：コミュニティから事業実施者の創出

このようなコミュニティから実際に事業が興るためには、どのようにすれば良いか。例えば、魅力的なテーマを提示してそれに引き込まれるグループが有効なのか、アイデアを持つコンダクター的な人物が必要なのかなどを検討すべきではないか。

図表9 コミュニティから事業実施者の創出イメージ



## 万博を契機にした「新たな共創活動に関する議論のための7つの仮説」

### サマリー

- ▶仮説1：万博を機に「世界を変える大きな志をもった活動の検討」を志向
- ▶仮説2：「コレクティブブレイン（集団脳）」による発想共創
- ▶仮説3：超異分野融合志向
- ▶仮説4：起承志向コミュニティ（0→1アクション重視）
- ▶仮説5：様々な母集団のいいところ取り
- ▶仮説6：「高濃度セレンディピティ」の実現
- ▶仮説7：コミュニティから事業実施者の創出

参考：2025 年大阪・関西万博について

#### ▶大阪・関西万博への期待

2025 年に大阪で開催される 2025 年日本国際万博博覧会（大阪・関西万博）は、2,820 万人の参加者が見込まれる世界的な一大イベントであり、これを機に関西の経済が飛躍することが期待される。

これまで、万博の開催により、社会の変革を伴うハード・ソフト両面のイノベーションが喚起されており、平和的な人類発展の切り札として期待されている。

名称：**2025年日本国際博覧会**  
(略称「大阪・関西万博」)

会場：**夢洲**（ゆめしま）（大阪市臨海部）

開催期間：**2025年4月13日（日）**  
**～10月13日（月）**

来場者数：**約2,820万人**（想定）

#### （テーマ・コンセプト・概要）

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン “Designing Future Society for Our Lives”

コンセプト：未来社会の実験場 “People’s Living Lab”

目標：SDGs の達成、Society5.0 実現

### （３）共創活動創出研究会による検討（共創活動創出イベントのポイントと設計）

（２）で取りまとめた万博を契機にした「新たな共創活動に関する議論のための７つの仮説」を踏まえ、共創活動の創出方法の創出条件について学識者や価値共創の実践者たちによる検討を行い、今後の関西における共創活動を促進していくためのイベント設計方法として以下のポイントを整理し、実際に具体的イベントを設計した。

#### ①共創活動を促進するイベント設計のポイント

##### ▶ポイント１：イベント参加者の厳選

イベント参加者を募るにあたっては、目的やねらいを見据え、厳選した呼びかけも一つのポイントとなる。気を付けるべき留意点として、１）コミュニティや人材にはそれぞれ醸し出す「カラー」があり、融和共創を目的とするカラーに相応しいかの判断も必要、２）有望な人材であっても、強すぎる個性はかえって全体の方向にはマイナスである、などが考えられる。

- ～ 例 ～
- ・万博を契機に何かのビジネスを始めたいと思っている方
  - ・日頃からユニークな発想をお持ちの方（アイデア人材）
  - ・ユニークなコア・コンピタンス、コア・コンテンツをお持ちの方
  - ・ビジネスコミュニティを主催する方（TEAM EXPO 2025 等）
  - ・お世話好き、お節介好き人材、コミュニケーション力の高い方などノリの良い方々

##### ▶ポイント２：プロトタイプ制作者の参加

非常に良い検討が行われていても実際に実施されないことも多い。これは先ず実際にプロトタイプを作ってみるという所に至らないことによることが多いと思われ、ラピッドプロトタイプが可能なメンバーがいると非常に進展するものと考えられる。

##### ▶ポイント３：サイバー交流システムの活用

リアルな交流と並行するネットを介したサイバーコミュニケーションツールの常備が有効ではないかと考えられる。これらは空間や時間を超えてコミュニケーションが可能であり、具体的なツールとして、例えば **Microsoft Teams** や **Discord**、**Slack** などが存在する。

図表 10 （参考）各ツールの比較

|       | Microsoft Teams                                            | Discord                                   | Slack                                                   |
|-------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 機能    | ・Office365のアプリ連携<br>・チャット<br>・オンラインストレージ<br>・通話<br>・ファイル共有 | ・チャット<br>・通話<br>・通話※ボイスチャンネルあり<br>・ファイル共有 | ・300種以上のアプリ連携<br>・チャット<br>・オンラインストレージ<br>・通話<br>・ファイル共有 |
| 特徴    | ・40近い言語対応<br>・大手企業等からの支持率の高さ                               | ・無料で多くの機能が使える<br>・音声とテキスト両方でやりとりしやすい      | ・データ共有がしやすい                                             |
| ビデオ通話 | 300～10,000人<br>※契約プランにより異なる                                | 25人                                       | ・無料：1対1<br>・有料：最大15人                                    |

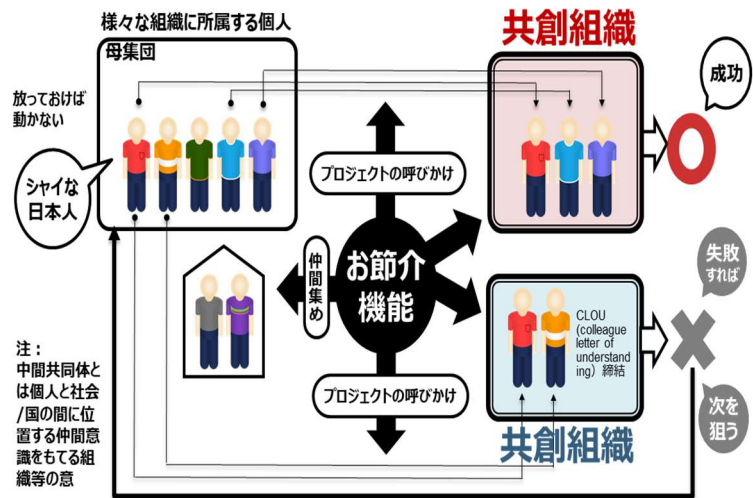
（2022年11月9日時点）

#### ▶ポイント4：お節介（つなぎ手）機能

共創活動は変化に対応するスピードが重要。しかし、自由な活動下だけでは互いに見合い、進まないことも多く、中間的な機関・人材の介在が有効。但し、一定期間で見極め形を変えることも必要。

例えば、DAO などの共創組織はダイナミズムに富み社会を変えるパワーを持つ存在として期待されるが、その性質がフルに発揮されるためには、組織化や合従連衡を促す「お節介（つなぎ手）機能」が有効であると思われる。

図表 11 お節介機能

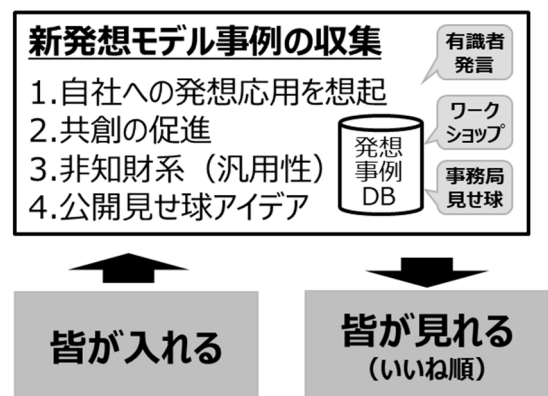


図表 12 アイデアの蓄積

#### ▶ポイント5：アイデアの蓄積

ともすれば一過性の事業になりがちな、活動から生まれたアイデアを蓄積し、オープンアイデア DB として同一フォームの記述・蓄積・供覧が重要。

新ビジネスを想起させる、ユニークな発想のビジネスアイデアや有望テーマに人が集まる。円滑な協議をするためには資料フォーマットなどが統一され見やすいこと等が有効。



#### ▶ポイント6：イベント等の会合の演出

##### 1) イベント参加者の属性の明示化（カラーリング）

イベントや名簿等において、属性・意識を参加者に分かるように明示することにより、マッチングの効率を高められないか。

##### 2) 感動の演出

###### ● 自分がない発想吸収機会の提供

長く同一業界で活動すると固定的な観念に陥りがちであり、全く違う世界の発想や一見荒唐無稽な発想の中からユニークな心理を見いだすことも多く、そのような発想との出会いの提供は非常に有用。

###### ● アイデア発信機会の提供

自身で深く温めていた発想や、経験や業務から導いた新ビジネス等について、多様な人材に確認したり、仲間を募る場を提供。

###### ● 意見発信機会の提供

イベント等において一方的に意見を聞くのではなく、出された意見に対する参加者の考えを発信する機会を設けることで、より充実したイベントになることが考えられる。参加者全体でなくともワークショップ的な少人数のグループに分けた議論も有効。

▶参考：共創を志向する会合・イベントにおけるキーワード抽出（イメージ）

|                               |                        |                   |
|-------------------------------|------------------------|-------------------|
| 秘密結社の魅力<br>選ばれたる恍惚            | 心理的安全性<br>の確保          | アバターによる人<br>格匿名化  |
| イザヤベンドサン<br>日本教徒<br>深層心理での繋がり | パーソナルスペース<br>心理的縄張り    | SNSなどの<br>ツールの活用  |
| 組織を離れた<br>個としての繋がり            | 日本的<br>コレクティブ<br>インパクト | Web3・DAO的<br>組織運営 |
| 活動の<br>限界効用逓減                 | 目標の<br>ブランド化           | 同調による<br>魅力低減     |

### 共創活動を促進するイベント設計のポイント サマリー

- ▶ポイント1：イベント参加者の厳選
- ▶ポイント2：プロトタイプ制作者の参加
- ▶ポイント3：サイバー交流システムの活用
- ▶ポイント4：お節介（つなぎ手）機能
- ▶ポイント5：アイデアの蓄積
- ▶ポイント6：イベント等の会合の演出

## ②共創活動を促進する具体的イベントの設計

研究会から得られた上記ポイントをはじめとして、仮説検証を行うための具体的なイベント設計を行った。設計においての重点は以下のとおりである。

### 【イベント設計に係る重点】

#### 1) 開催方針の設定

2025 大阪・関西万博を契機にした「万博ソフトレガシー<sup>※1</sup>としての Society5.0 の実現」と「いのち輝く未来を託す若者への訴求」をテーマに、共創への意識喚起や参加者相互の人脈形成を志向するトライアルイベントとして設計した。

従来のセミナーやシンポジウムではなく、「招待者<sup>※2</sup>」を中心に人脈づくりや他者アイデアの共有、新たな共創コミュニティの創出など、本会自体が共創を生み出すきっかけ（ジェネシス）となるような、高濃度共創コミュニティとしての集まり/会合になることを目指す。

<sup>※1</sup> 万博ソフトレガシー：2025 大阪・関西万博の開催後に残る無形資産。

<sup>※2</sup> 招待者：本事業における招待者とは近畿経済産業局やジェネシス研究会の各委員からの推薦をベースとし、「乗りの良い面白い人材」を中心に、例えば、関西の若者（学生）などにも呼びかけることで、世代間を超える超共創の実現を目指す。

## 2)「招待者」の選定について

(主に近畿経済産業局から呼びかけ)

### A ツール系 (Society5.0系)

- ▶IT・システム
- ▶交通・旅行
- ▶地域振興
- ▶メディア
- ▶金融
- ▶共創空間  
など

(主に研究会委員から呼びかけ)

### B テーマ系

- ▶食、環境、エンタメなど 3E  
(Eats, Environment, Entertainment)
- ▶エネルギー
- ▶デザイン
- ▶農業
- ▶ものづくり
- ▶サービス
- ▶教育
- ▶地域ブランド など

## 3) 招待者に対するインビテーションの方法について

招待者候補に対し、研究会委員及び近畿経済産業局からインビテーションを電子メールで送付し呼びかけを行った。

なお、招待者候補に対し、周知されたい活動や計画等を別紙フォーマットに取りまとめ情報提供を依頼した。

図表 13 インビテーションと提案フォーム



(インビテーションストーリー)

**開催趣旨 万博ソフトレガシーを創る会 (拡張EXPO-Meeting)**

— 関西全域を「Living Lab≒共創空間」に！ —

本Meetingは、2025 大阪・関西万博の開催を契機に、未来を託す若者へ訴求する「Society5.0の実現」や「いのち輝く未来社会の実現」を志向したプロジェクトや活動の創出方法を検討する集まりです。

また、本Meetingは、事前に数名の有識者の方々から共創活動のコツや課題などのご意見をお伺いし、それを意識しつつ、実践的なキーパーソンにお集まりいただき関西の未来に向けた活動を考える挑戦的な事業です。

加えて、参加者相互の超異分野人脈形成の可能性にも期待しております。

当日は、公益社団法人 2025 日本国際博覧会協会の方々とは勿論、是非皆様と相互に交流いただきたいウイエイターの方々や万博への関心が深い方々にお声をかけ、新たな共創方法の議論や活動アイデアを検討したく、年度末のお忙しい時期ではございますが、各位万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

**議題・検討内容 (現時点イメージ)**

— 我々は万博を契機に次世代に何を残すべきか —

1. 超発想と超共創・超人脈構築
  - ・これまでとは違ったビジネスモデルの発想
  - ・これまでとは違った人材との交流
2. 共創活動 / コミュニティについて
  - ・これまでとは違ったコミュニティの機能や工夫
  - ・これまでとは違った共創活動の方法
3. 円滑しつつある様々な共創活動事例

**このような方にお声かけします**

- ▶ 万博を契機とした新たなビジネス創出や万博の活用などにご興味のあると思われる方
- ▶ ユニークなアイデアやコア・コンピタンス、コア・コンテンツをお持ちの方
- ▶ 共創コミュニティや共創空間に携わられている方 (TEAMEXPO 等)
- ▶ ビジネスの事業化など、企業支援をしている方

注：恐縮ですが、ご出席にあたり主催者からの交通費・謝金等のお支払いは致しかねますのでご留意ください。

(アイデア等提案フォーム)

**別紙フォーマット**

▶ 万博ソフトレガシーを創る会 (拡張EXPO-Meeting)

□ 参加いただく方に周知されたい活動や計画等がありましたら、こちらの別紙フォーマットでご提供いただきましたら取りまとめの上、当日資料として配布させていただきます (任意)。

□ お一人様の枚数については、特に制限は設けておりませんが、1つの案件ごとに別紙1枚以内でそれぞれまとめていただきますと幸いです。

▶もし、参加者の方に周知されたい事業や活動がありましたらご記入ください。(全員の任意です)印刷し全員に配布いたします。

Fig.1

Fig.2

▶XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
▶XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
▶XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX  
▶XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

※基本的にこのスペースをこのように記述いただくことも結構です。図表だけでも結構です。

#### (4) 共創活動創出イベントによる試行的検証

前述のイベント設計に基づき、招待者を集め、2025 大阪・関西万博を契機にした「万博ソフトレガシーとしての Society5.0 の実現」と「いのち輝く未来を託す若者への訴求」をテーマとして共創への意識喚起や参加者相互の人脈形成を志向するイベントを試行的に実施した。

選定した招待者を中心に、参加者は 58 名（企業 40 名、企業以外 13 名、大学生等 5 名）となり、開催概要は以下のとおりである。

図表 14 「万博ソフトレガシーを創る会」(拡張 EXPO-Meeting)

| 項目    | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催概要  | <p>名称：「万博ソフトレガシーを創る会」(拡張 EXPO-Meeting)</p> <p>日時：2023 年 3 月 9 日(木) 14:00 ～ 17:30</p> <p>場所：NTT 西日本「QUINTBRIDGE」</p> <p>対象：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの活動実践人材、万博担当になられた方</li> <li>・万博の活用等にご興味のあると思われる方</li> <li>・ユニークなアイデアやコア・コンピタンス、コア・コンテンツをお持ちの方など</li> </ul> <p>形式：リアル会場</p>                                                                                                                                                        |
| プログラム | <p>※登壇者名：敬称略</p> <p>14：00 開会/前説</p> <p>14：10 来賓挨拶 &amp; 万博の意義と可能性</p> <p>・公益社団法人 2025 日本国際博覧会協会 機運醸成局長<br/>／堺井 啓公</p> <p>14：25 問題提起：目指す未来とその実現方法</p> <p>・近畿経済産業局総務企画部 2025NEXT 関西企画室<br/>／石原 康行</p> <p>14：35 異才コメンテーター紹介</p> <p>・新産業文化創出研究所 所長<br/>／廣常 啓一</p> <p>・graf 代表<br/>／服部 滋樹</p> <p>15：05 議論：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論点 1. 発想・アイデア議論</li> <li>・論点 2. 活動議論</li> <li>・論点 3. 今後の方向性</li> </ul> <p>17：00 フリー交流</p> <p>17：30 閉会</p> |



### 【主な意見、開催後の主なアンケート意見・本イベントからの考察等】

新たな共創活動に関する仮説および研究会で検討したポイントを踏まえた試行的な取組であったが、多くから参加者の賛同を得る結果となった。具体的には招待者の中から多くのオープンアイデアや活動テーマが集まり、本イベント後にはいくつかの共創の芽が生まれたとともに、共創が生まれやすいアイデアや活動が分かった。

#### ▶参加者からの声（アンケート結果の一部）

- ・万博に向けた共創の場は必要。特に人との繋がり、心の繋がりが重要。
- ・ハブとなるこのような活動は大変ありがたいものであり、ネットワーク構築を求めている。
- ・非常に多様性がある集まりでワクワクするヒントがいっぱいあった。このような集まりは定期的に開催されることが重要で、次は各グループに分かれた連携も必要と感じた。
- ・大変勉強になった。もっともつとこのような機会を増やすべき。
- ・多くの方が参加して、多様なお考えをきくことができた。参加者同士で同じ目的、思いをもっている方と今後も意見交換を深めていきたい。
- ・本日は万博というキーワードで多様な才能が集まり、有意義であった。しかし一般的に万博はまだ知られていない。本日集った人々が「万博盛り上げ」策の改善策を考えるべきだ。
- ・今回のような交流は大切と考える。そして、参加者とプロジェクトを推進し、成し遂げられたら、次へ深化するはずだ（お互いの価値交換からの深化）。

以上の成果や当日イベントの参加者の声から導き出されるまとめとして、学生から企業など幅広い層で、これまであまり交流する機会が少なかった多様な分野の方々が、その多くの知見から新たなアイデア（共創発想）のテーマを議論し、これまでにないビジネスアイデアを見出す「新たな概念の共創活動」が各所で望まれていることが分かった。

特に万博を契機とした新たな共創活動の概念として「共創 2.0（拡張 EXPO ラボ）」の創出につなげることができた。

## (5) 小括

今回の共創活動創出研究会、及び試行的に行ったイベントをとおして、明らかとなった「機能する共創活動やその連携」に関する考察は以下のとおりである。

### ①共創コミュニティ（組織）に関して

- ・共創コミュニティ（組織）のあり方は様々であり、その機能や役割により多様である。
- ・組織における中心的人物（運営者等）の魅力や提示するアイデアが重要。
- ・今後 DAO の要素を真似た共創組織（＝疑似 DAO）の出現もありうる。

### ②共創活動促進イベントの参加者に関して

- ・会場が一体化したイベントの参加者数は 50 名程度が限度である。
- ・意識の高い方だけに参加いただくのではなく、イベントの色合いの考慮も必要。
- ・事前にマッチング確度を高めるための仮説設定と仮説に基づく参加者の厳選が重要。

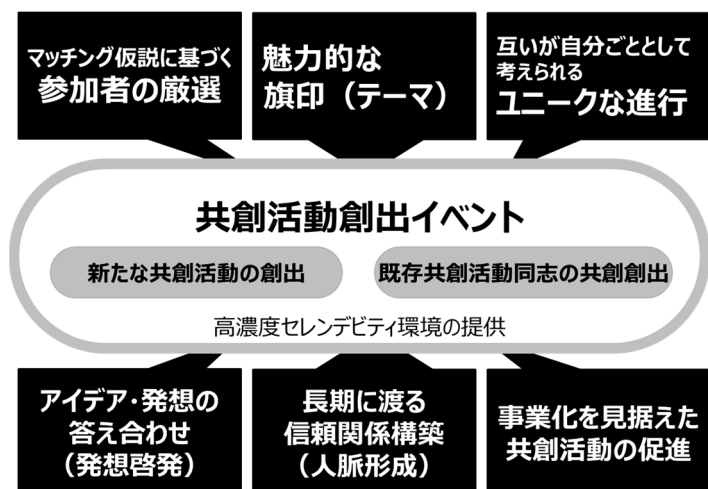
### ③共創活動促進イベント運営に関して

- ・多少荒唐無稽であっても他にないユニークなアイデアには参加者の興味が集まることが多い。
- ・主催者の意図する仮説を逸脱した議論も多く、それが有効な刺激となる。
- ・これまでにない新発想に基づく議論では、全く違う業種同志の交流も活発化される。

## 【共創 2.0 を実践する新たな共創を喚起するイベント開催の方策（結論）】

今回の試行イベントでは、概念を事務局が設定し、それに対して有識者などが選定した参加者がアイデアを提案し全体検討を行った。今後、更にテーマを絞り込み、仮説や参加者を更に絞り込んだ**確度の高い共創活動創出への可能性**があると思われる。また、そのような濃度の高い出会いの中でも、**予期せぬ偶発的・魅力的出会いに発展する可能性もあり**、**偶発的予知を残すことも重要**であると思われる。

万博はこのような共創活動創出にあたっての前向きなマインドを醸成する機能としても期待され、この機会を十分に活用することが肝要である。



## 第2章【共創活動加速化事業】

### 価値共創加速化研究会及びセミナーによる検証

---

第1章では「万博」との連携の可能性に重点をおいたコミュニティ等に主眼を置き、共創活動を創出する重要性についての調査・検証を行ってきた。

本章においては、「万博」に限らず、このような「価値共創※」を実践するコミュニティに主眼を置き、共創活動がさらに「加速化」するために必要な要素を見いだすための調査・検証を行うこととする。

※「価値共創」 …… 次項にて詳細記載

## （１）本事業における「価値共創」とは

### ①「価値共創」の定義及び従来概念との違い

近畿経済産業局では、令和３年度「企業による価値共創事業の実態調査」において、そもそも価値共創とは何かという定義付けの検討から始め、国内での価値共創をめぐる各種議論や内閣府の価値共創タスクフォースの結果に加えて、当該調査における価値共創研究会委員の知見や経験を共有し、以下のように価値共創の定義を行った。

#### [価値共創の定義]

・ **社会に変化をもたらす新しい価値を共に生み出す活動**。そのために、画一的でない価値観を有する**多様なステークホルダー**と、共有された大きな目的のもと、**創造的対話を継続的に実施**する。**各々が貢献（提供）できる資源を持ち寄り、組み合わせること**で、**実験・実装**を行い、地域社会の共感を呼んでいくもの。

また、価値共創の定義とともに、オープンイノベーションの一種である価値共創について、従来までの概念との相違を整理している。他の類似する事柄や概念（ビジネスマッチング・異業種交流会・オープンイノベーション 1.0）と比較すると、価値共創の特徴は、「自身の従来までの領域にとらわれず」、「ステークホルダーと目的を共有する点」や、地域コミュニティとのつながりと地域社会発展への貢献という「地域への視点」等に違いがあるとしている。

図表 16 既存概念との比較

| パラメーター |                    | ビジネス<br>マッチング | 異業種<br>交流会 | オープン<br>イノベーション<br>1.0 | 価値共創 |
|--------|--------------------|---------------|------------|------------------------|------|
| 主体の意識  | 主体性・マインドセット        | ○             | ○          | ○                      | ○    |
|        | 多対多の関係性            | ×             | △          | ×                      | ○    |
|        | <b>相手との目的の共有</b>   | △             | ×          | ○                      | ○    |
|        | 前提にとらわれない          | △             | ○          | △                      | ○    |
|        | <b>自身の境界を超える</b>   | ×             | △          | △                      | ○    |
| 成果指標   | 成果目標や KPI が緩やか     | △             | ○          | ×                      | ○    |
|        | 未来志向での投資           | ×             | △          | ×                      | ○    |
| 地域への視点 | <b>地域社会との接点・貢献</b> | ×             | ×          | ×                      | ○    |

[出所] 令和３年度「企業による価値共創事業の実態調査」報告書

## ②価値共創やつなぎ手に必要な要素・ポイント

価値共創が行われるにはいくつかの要素やポイントが存在するが、それらを大別すると、必要とされるのは、主体（価値共創に取り組もうとする企業や団体）、つなぎ手（価値共創に必要なつなぎ手・空間）、地域（価値を実験・実装する領域）の3つの要素になる。また、3つの要素の中には以下のようなポイントが存在しており、それらを整理すると、以下の図のようになる。

図表 17 価値共創に必要な3つの要素と7つのポイント



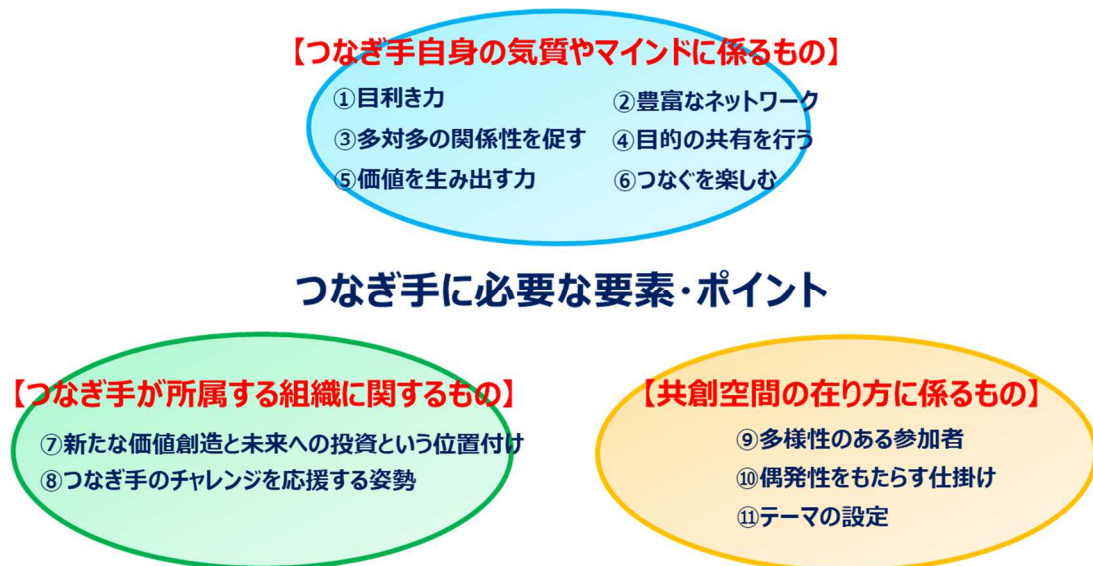
| 区分   | 要素                 | 内容                                                         |
|------|--------------------|------------------------------------------------------------|
| 主体   | ① 主体性・マインドセット      | ・ 自社の強みや弱みを把握し、他力本願ではなく、想いをもち自分事として主体的にプロジェクトに参加する         |
|      | ② 自身の領域から踏み出す      | ・ 「前提」にはとらわれない。業界や商慣習にとらわれず、自社や自身の領域から飛び出す                 |
| つなぎ手 | ③ 異質なものが集まる場や空間を創出 | ・ 想像もつかないような主体同士を引き合わせるつなぎ手の存在が必要。異質な主体が集まる場や共創空間が必要       |
|      | ④ 多対多の関係性を促す       | ・ つなぎ手が多様な主体（企業や行政、NPO、市民など）を巻き込み、多対多の関係性を意識的に作り出す         |
|      | ⑤ 目的の共有を行う         | ・ 多様な主体が共通の目的を持つことができるように、共創空間の機能としてつなぎ手が上手くコーディネートする      |
| 地域   | ⑥ 地域や生活者への貢献       | ・ 価値共創で生まれた事業やアイデアが、自社だけでなく、地域や生活者にどう影響し、どんな意義があるかという視点を持つ |
|      | ⑦ 地域での実験や実装        | ・ 価値共創から生まれた事業やアイデアの地域社会での実験を行う。トライアルを経て最終的に地域社会での実装を目指す   |

[出所] 令和3年度「企業による価値共創事業の実態調査」報告書より作成

また、これら3つの要素のうち、価値共創を促進させ地域に根付かせていくためには、「つなぎ手」の要素が特に重要である。共創空間は、大企業や金融機関、中小企業、行政

など様々な主体によって設置されており、関西においても各地で共創空間が生まれているが、地域へ浸透し、うまく機能する空間へとしていくためには、つなぎ手の存在が不可欠としている。つなぎ手に必要な要素・ポイントについては、つなぎ手自身の気質やマインドに係るもの、つなぎ手が所属する組織に関するもの、共創空間の在り方に係るもの、という3つの視点で整理を行っている。

図表 18 つなぎ手に必要な要素・ポイント



〔出所〕 令和3年度「企業による価値共創事業の実態調査」報告書

### ③今年度調査における視点

「価値共創」が上手く進展・加速するためには、共創活動を促すつなぎ手の存在が大きい。そこで本事業では、つなぎ手にフォーカスした調査を行うとともに、つなぎ手が乗り越えなければならない「壁」や今後の価値共創の加速化の「過程」を明らかにする。

## （２）価値共創における「壁」の可視化

まず、価値共創においてつなぎ手が乗り越えるべき「壁」を検証するため、価値共創を先駆的に実践する共創空間に対してヒアリングを行い、価値共創の主役であるつなぎ手のモチベーションの変遷を整理する。つなぎ手たちのモチベーションをグラフ化（モチベーショングラフ）して整理し、その変遷から、価値共創に取り組むにあたってどのような「壁」に直面してきたのかを分析する。

今回は近畿地域外の事例も抽出し、それらをモデルケースに分析を行った。以下、４つの事例を紹介する。

### 【事例１】QUESTION（京都信用金庫）～地域金融機関による共創活動の先進モデル～

- ・運営主体：京都信用金庫
- ・設立年： 2020 年 11 月設立
- ・所在地： 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 390-2
- ・取組内容：コワーキングやレンタルスペース、イベントスペース、カフェ等を自社ビル内で展開し、各種セミナーやワークショップ、共創プロジェクトを実施。地域・コミュニティとの共創をキーワードに、企業人から学生、個人事業主に至るまで多様な人々が集い、問い（QUESTION）から地域や社会を変革していくことを目指す

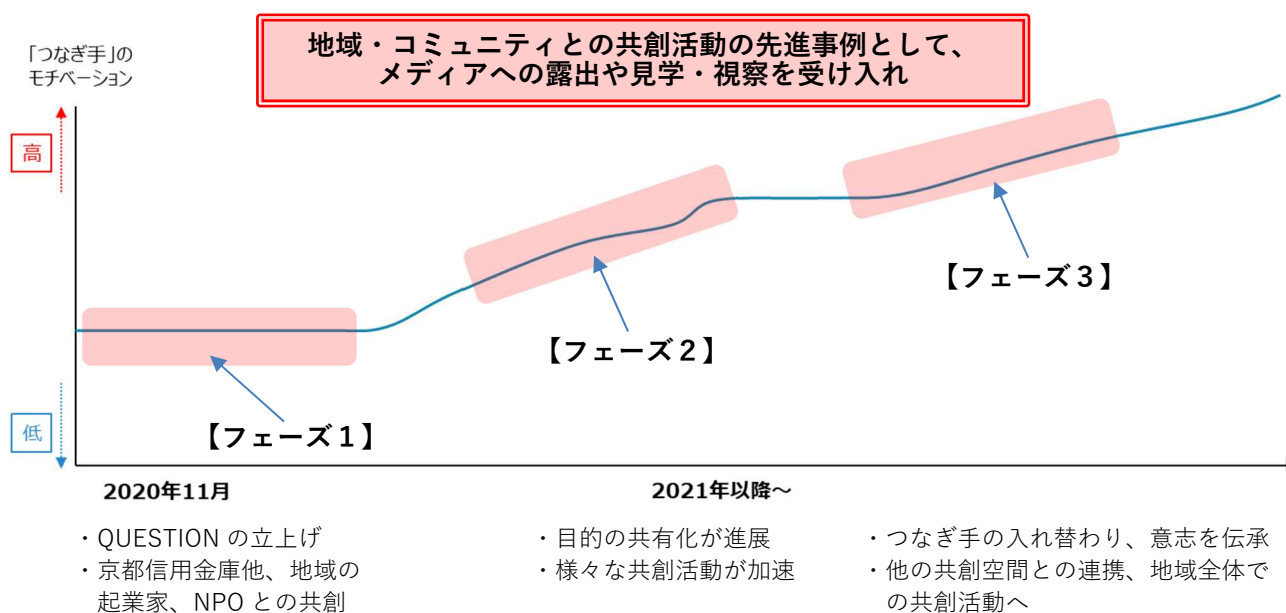
図表 19 QUESTION



[出所] QUESTION ホームページ

つなぎ手たちのモチベーションをグラフ化すると、立ち上げ当初は、内外の関係主体と連携しながら手探りで運営となっていたが、2021年以降は QUESTION の活動目的や理念が内外に広く共有されたことで、一気に盛り上がりを見せている。立ち上げに参画したつなぎ手たちの異動もありながらも、多様なつなぎ手の育成に成功したことで、様々な共創事例を生み出している。

図表 20 モチベーショングラフ (QUESTION)



#### 【フェーズ1】

- 地域に寄り添う金融機関を目指し、地域の様々な人が集うスペースとして QUESTION が設立
- プロパーのスタッフがつなぎ手となり、運営面では外部の NPO や企業等とも連携しながら、活動に着手。「つなぎ手」たちも手探りの状態からスタート

#### 【フェーズ2】

- QUESTION と京都信用金庫の支店間での連携が強まり、地域の様々な関係者から得られた情報が社内イントラネットで共有
- 地域やコミュニティに寄り添うという「目的」が QUESTION での活動を通じて浸透し、様々なセミナーや連携プロジェクトに発展

#### 【フェーズ3】

- 人事異動等で QUESTION を離れるつなぎ手も出てくるが、異動先の支店でも地域に寄り添う共創マインドを発揮。新たに着任したつなぎ手たちにも、目的が共有されていく。QUESTION が同社のシンボルとしてさらに発展
- 他の共創空間との連携も模索し、それぞれの特徴や強みを生かした連携体制を模索中

## 【事例2】Garage Sumida（浜野製作所）～Garage Sumida から世界へ～

- ・運営主体：株式会社浜野製作所
- ・設立年： 2014年4月
- ・所在地： 東京都墨田区八広 4-36-21
- ・取組内容：金属加工業として創業。現在は、加工のみならず製品開発を行う上でのハードウェア設計・製造に関するコンサルティングや、社外から専門技術を導入する際のリサーチ、エンジニアの教育サービスを提供。新たなビジネスシーズやパートナーの発掘・紹介、試作開発から製品化まで含むオープンイノベーションを支援

図表 21 Garage Sumida

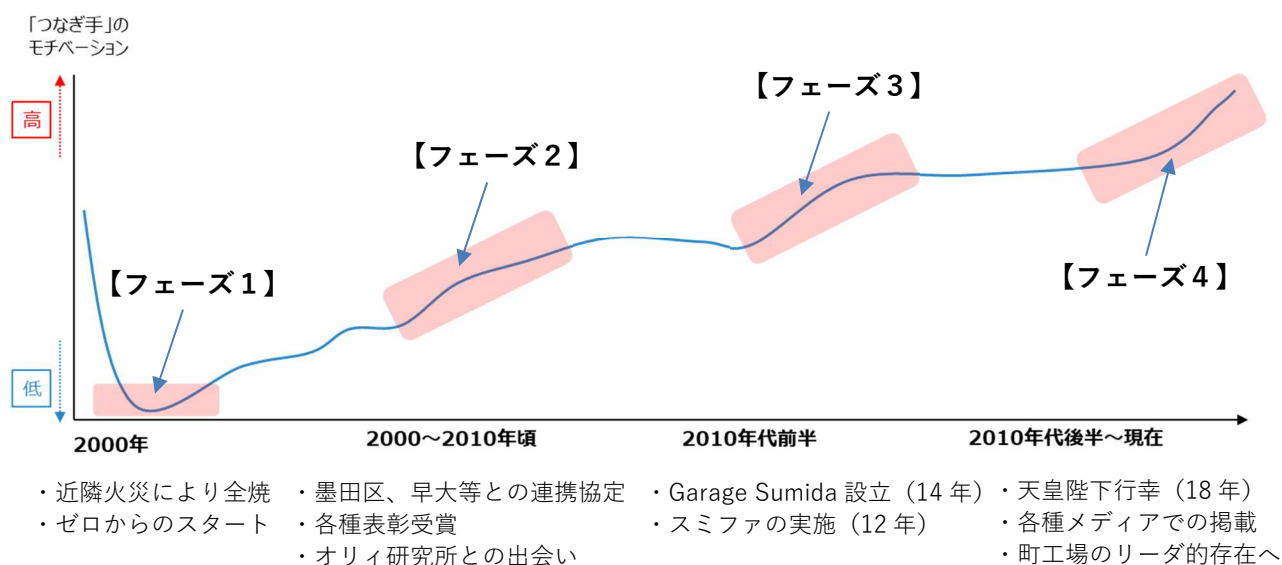


[出所] 株式会社浜野製作所により提供

[注] 写真は香川 賢志氏の撮影による

つなぎ手たちのモチベーションをグラフ化すると、2000年代には行政や大学等との連携協定の締結や各種表彰を受賞するとともに、パッションを持つ若手起業家との出会いを通じて、後の Garage Sumida 設立につながるベースを構築している。2010年以降になると、Garage Sumida の立ち上げや同社の代表がオープンファクトリー（スミファ）の発起人になるなど、町工場の技術とノウハウを生かした共創空間づくりへと結実していく。その後も「町工場の雄」として、ベンチャー企業と町工場をつなぐ様々な活動を展開している。

図表 22 モチベーショングラフ（Garage Sumida）



#### 【フェーズ1】

- 火災により事業所が全焼
- 様々な人に助けられながら、事業の再建に着手

#### 【フェーズ2】

- 行政や大学等とのネットワークを拡大し、多くのサポーターを獲得
- オリィ研究所の吉藤代表と出会い、パッションを持つ若者をものづくりで支援していく

#### 【フェーズ3】

- 多様なネットワークの拡大が Garage Sumida に結実。町工場の技術と知見をフルに生かした共創空間の設立へ
- オープンファクトリーなど地域を巻き込んだ共創活動へ

#### 【フェーズ4】

- 町工場の雄として、ベンチャー企業と町工場をつなぐ。400件近いベンチャー・新規事業支援実績へ
- 若手経営人材の採用により、次世代を担う人材育成、つなぎ手の育成へ

【事例3】 point 0（ポイントゼロ）～ビジネス創出を目指すアグレッシブな共創活動～

・運営主体：株式会社 point0

※空間・空調設備等に係る企業 18 社が参画（2023 年 3 月時点）

・設立年： 2019 年 2 月

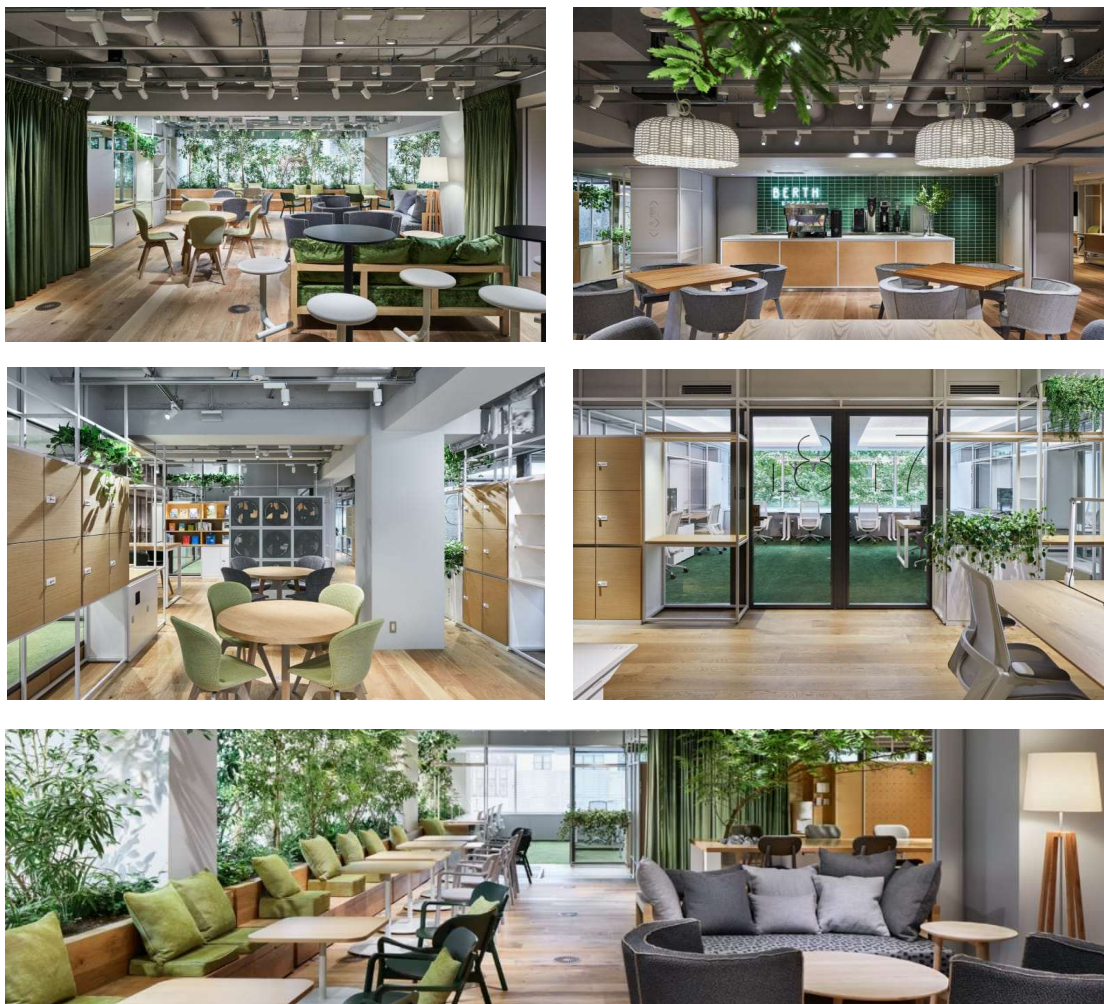
・所在地： 東京都千代田区丸の内 2-5-1 丸の内 2 丁目ビル 4F

・取組内容：企業間協創／共創型コワーキング、サテライトオフィス事業など

施設内の各種スペースを活用した新製品・システム等の実証実験を展開

※参画企業に所属する従業員の利用が多く、スタートアップや個人事業主が中心の一般的なコワーキングスペースとはスタイルが異なる

図表 23 point 0（ポイントゼロ）

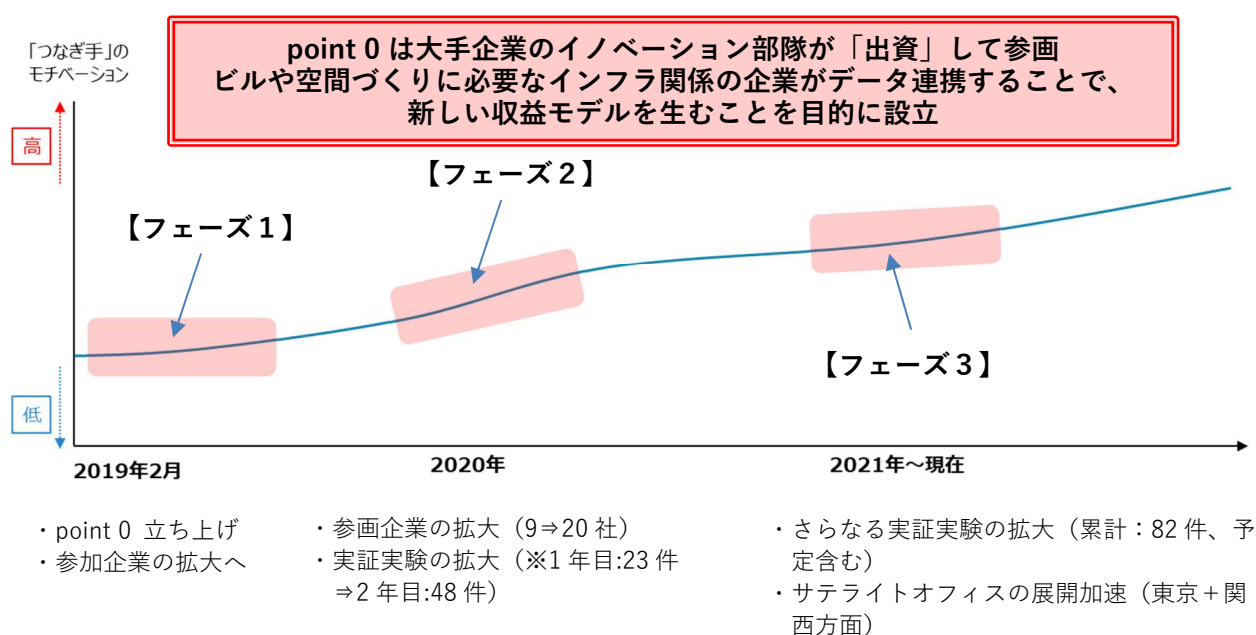


〔出所〕 株式会社 point0 ホームページ ※point 0 marunouchi 施設内写真

〔注〕 【撮影】 ナカサアンドパートナーズ

つなぎ手たちのモチベーションをグラフ化すると、point 0 への参画企業が増加するなかで、様々な実証実験への取組が拡大している。ビジネス創出を目指すアグレッシブな共創活動を旗印に、「目的」に共感できるメンバーが参加することで、さらなる成果の創出を目指している段階にある。

図表 24 モチベーショングラフ (point 0)



#### 【フェーズ1】

- ダイキン工業株式会社の呼びかけにより、同社と株式会社オカムラを中心に point 0 を立ち上げ ※当初 9 社で立ち上げ、その後、徐々に参画企業を拡大

#### 【フェーズ2】

- メディアへの露出も増加し、参画企業が増加。オフィス内での共創活動の急増
- コロナ禍でもオンラインやハイブリッド型のイベントにより、企業間での共創活動を継続

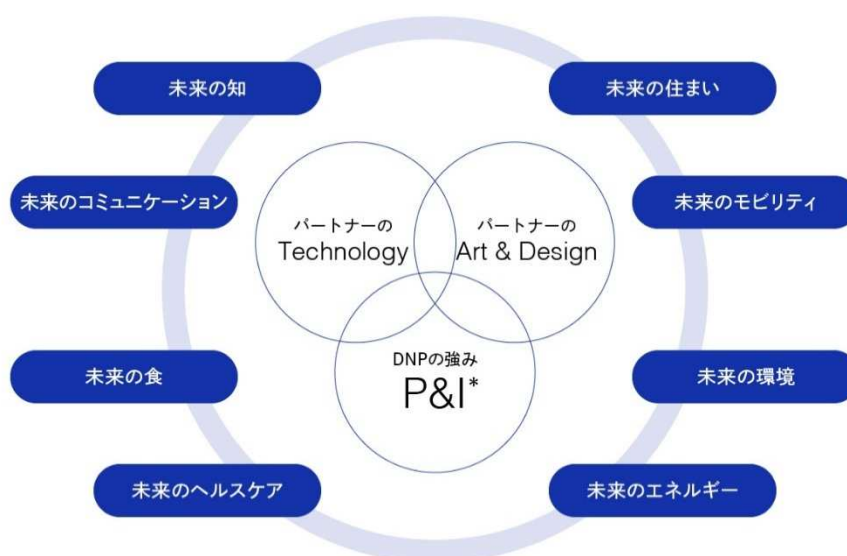
#### 【フェーズ3】

- オフィス内での実証実験がさらに拡大
- ビジネス創出を目指すアグレッシブな共創活動という「目的」に共感できるメンバーをもっと集める必要

【事例4】DNP プラザ（大日本印刷）～自社のコア技術を活用した共創活動～

- ・運営主体：大日本印刷株式会社
- ・設立年： 2016 年 8 月
- ・所在地： 東京都新宿区市谷田町 1-14-1 DNP 市谷田町ビル
- ・取組内容：印刷（Printing）と情報（Information）に関する技術力、発想力、企画力、ノウハウと、生活者や企業・教育機関等のアイデアや技術、アートやデザイン、その他の強みを掛け合わせて、実証実験を行いながら「未来のあたりまえ」の創出につなげていく共創型施設

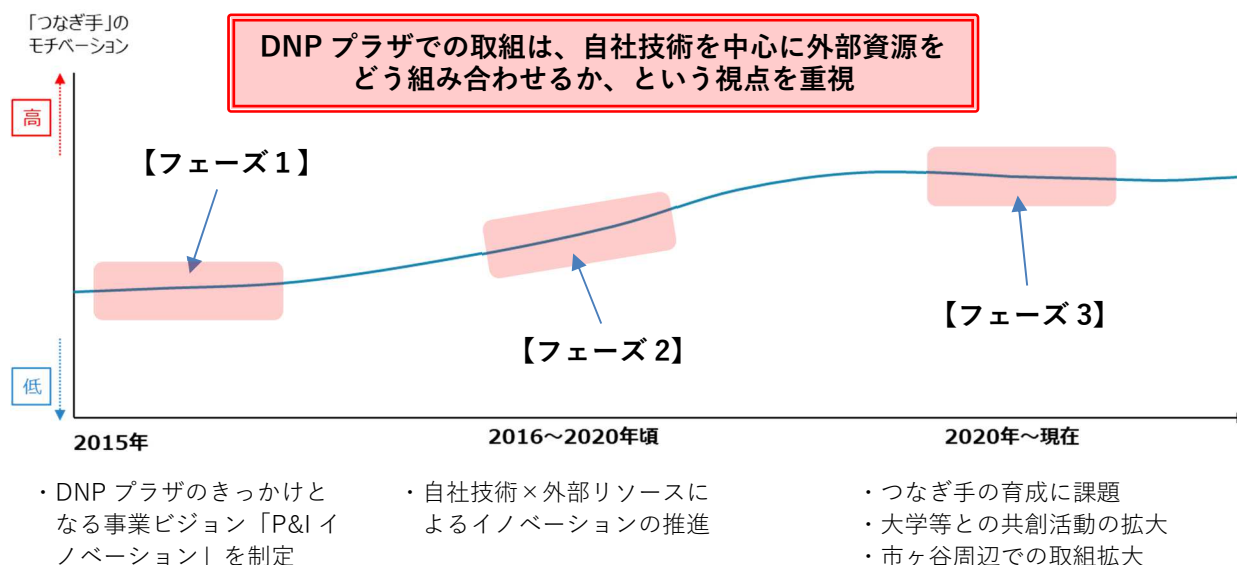
図表 25 DNP プラザ（大日本印刷）



[出所] DNP プラザ ホームページ

つなぎ手たちのモチベーションをグラフ化すると、DNP プラザのきっかけとなる事業ビジョン「P&I イノベーション」を制定したことで、共創活動がスタートし、本社が所在する東京・市ヶ谷周辺での自社施設を活用したまち全体を巻き込んだ共創活動を目指している。直近では、大学等との連携による共創活動も生まれているが、今後のさらなる発展のために、つなぎ手の育成が課題となっている。

図表 26 モチベーショングラフ (DNP プラザ)



#### 【フェーズ1】

- 印刷業界の未来に危機感を持ち、代表者を中心に自社技術と外部リソースの掛け合わせによるイノベーション戦略を展開

#### 【フェーズ2】

- 自社技術×外部リソースによるイノベーションの推進
- あくまで DNP の自社技術を「幹」として、外部との共創を目指すもの

#### 【フェーズ3】

- 本社がある市ヶ谷周辺の自社施設を活用して、生活者を対象とした事業検証活動を展開
- 共創施設の整備は進んできたが、共創空間を実際にマネジメントする「人材」育成に課題
- 共創活動の目的を理解し、技術面に明るくかつ社内外とのコミュニケーションが取れる人材の育成に課題（＝つなぎ手の育成）
- 芸術系の大学等との共創活動が拡大（例：武蔵野美術大学など）

### （３）価値共創加速化研究会での検討

（２）で実施した共創空間へのヒアリング調査やつなぎ手たちのモチベーションの可視化（グラフ化）を基に、つなぎ手たちが直面する「壁」について仮説構築を行い、価値共創加速化研究会（※資料編に概要を記載）において、学識者や価値共創の実践者たちによる検討を行った。

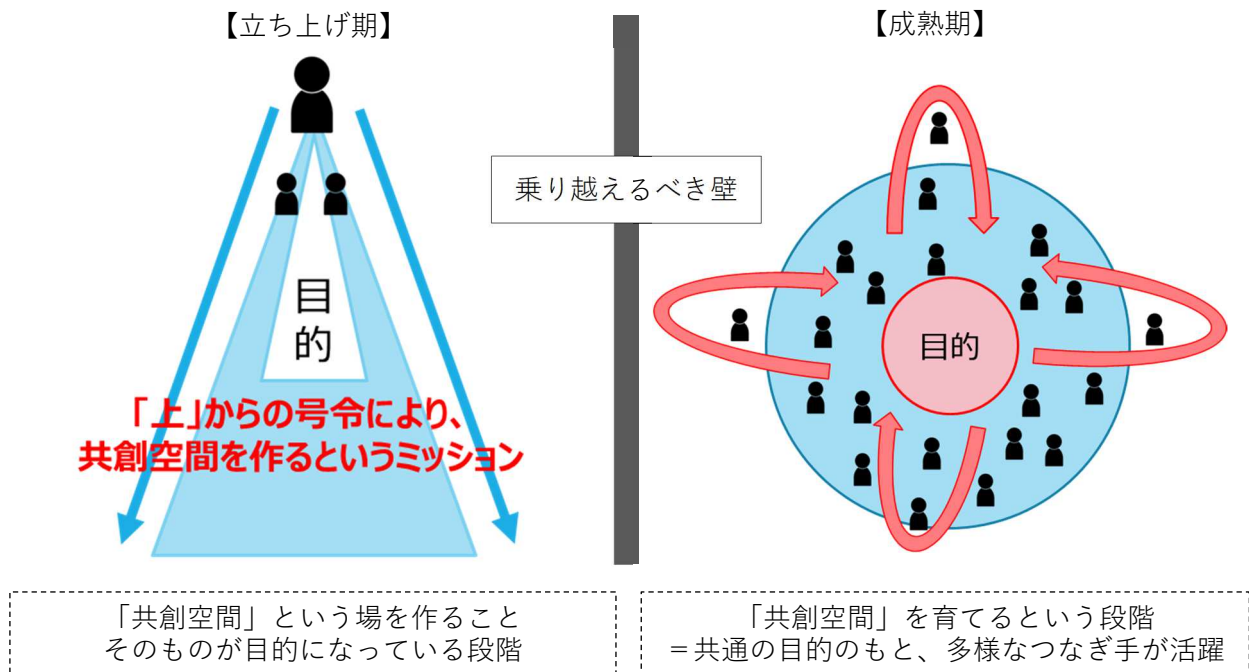
#### ①価値共創の「壁」に係る仮説

共創空間やつなぎ手へのヒアリング調査から、価値共創に取り組むつなぎ手たちが直面する「壁」は、共創空間の立ち上げ期から共創活動が成熟し、様々な成果を生んでいくプロセスの間に存在すると考えられる。この仮説を図式化すると、以下のようになる。

立ち上げ期は、経営層からの号令により共創活動に取り組むことが決まり、そこにアサインされたつなぎ手たちが試行錯誤しながら、共創空間の立ち上げを行っている段階であり、空間を作ることそのものが目的となっている。一方、成熟期は、共創空間の目的が社内外の様々な人間に共有、認知されることで多様なつなぎ手たちが共通の目的のもとに自由に活動するステージである。

そして、この立ち上げ期から成熟期に移行する間に、乗り越えるべき「壁」が存在するという構図になっている。

図表 27 つなぎ手が乗り越えるべき壁

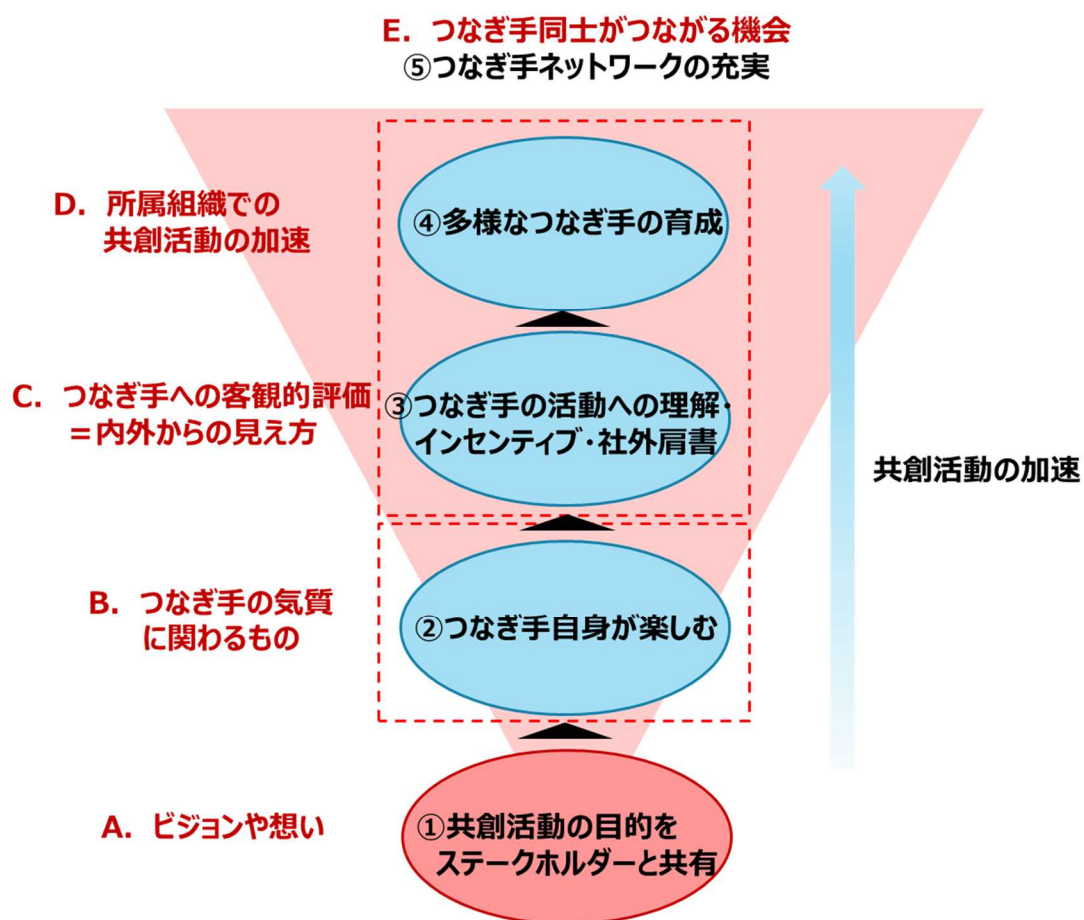


[出所] ヒアリング結果等をもとに構築

## ②価値共創の「壁」に関する検討結果

前述した仮説について価値共創加速化研究会で議論を行ったところ、おおよそ①価値共創の「壁」に係る仮説でみたような構図には異論はないが、特に立ち上げ期から成熟期に至るまでの活動において、つなぎ手たちが「壁」をブレイクスルーするために必要なポイントがあることがわかった。それらを大別すると、以下のように、5つの理想的なステップ（①～⑤）と5つのポイント（A～E）に整理できる。

図表 28 立ち上げ期のつなぎ手のブレイクスルーに向けて



[出所] 研究会等での議論をもとに作成

## <A. ビジョンや想い>

### ステップ① 共創活動の目的をステークホルダーと共有

#### 【研究会での議論】

- ・ 一番大事なのは、**共創活動のビジョンであり、つなぎ手がそれを人と共有できるか**である。それがつなぎ手として共創活動を行う上で最も大事になる部分である。
- ・ 最初は失敗しないように、自分の言葉をあまり出さないようにしていたが、自分自身の考えやスタイルを前に出し、**共創の目的を語るようになってから状況は大きく変わった**。様々な人とつながり、スムーズに共創活動が進んでいく。そうしたプロセスを実体験として持っている。

## <B. つなぎ手の気質に関わるもの>

### ステップ② つなぎ手自身が楽しむ

#### 【研究会での議論】

- ・ 共創活動が徐々に上手く進む中で、つなぎ手が楽しんでいるか、というシンプルな点も大事である。**つなぎ手が疲弊していると、誰もつなぎ手をしたいと思わない**だろう。
- ・ つなぎの手の活動や意義を**自ら発信することが重要**であり、そうしたことで、価値共創の取組の魅力も広がっていくのではないか。

## <C. つなぎ手への客観的評価（＝内外からの見え方）>

### ステップ③ つなぎ手の活動への理解・インセンティブ・社外肩書

#### 【研究会での議論】

##### ■活動への理解

- ・ 共創活動が軌道に乗り始める中で、価値共創の重要性が社内で認知されていることも重要となってくる。**職能として認められていないと非常に活動がしにくい**。社内にイノベーションに関連する部署がないと、理解も得られず、やりづらさがある。
- ・ また、**社外での認知度や成功があれば、社内としても放っておけなくなる**。先人の活動に触発されて、**社内の若手でもつなぎ手になりたいという人が増えてくる**。
- ・ 共創活動のつなぎ手は、その価値が認められるまで時間がかかりそうである。
- ・ 価値共創に関わらず、前例のない取組を進める時には本当に評価されているのか、という感覚になる。社内も様々な声があるだろうし、そうした取組をよく思っていない層がいるのも確かである。

##### ■インセンティブ

- ・ **共創活動で成功したことによるインセンティブがあるか、という点である**。頑張っても報われない、ということが多いだろうし、それだと共創活動に取り組む人が増えない。

##### ■社外肩書

- ・ 人をつなぐためには、つなぎ手の肩書も重要である。**社内外の様々な活動に参画する中で、会社以外での肩書を持つことで動きやすくなる面もある**。
- ・ つなぎ手自身がセルフブランディングを行いつつ、様々な活動や肩書（例：代表）を持つことで、**外からの信頼感も変わってくる**だろうし、それによって人と人を上手くつなげられることも多い。
- ・ 肩書は重要であり、**誰でも責任者になれる**。立場が人を作るという側面もある。

## <D. 所属組織での共創活動の加速>

### ステップ④ 多様なつなぎ手の育成

#### 【研究会での議論】

- ・ 一人のつなぎ手だけではなく、**様々なつなぎ手を社内で育成**することが重要である。つなぎ手を社内で多く育成することが、価値共創が持続するポイントである。
- ・ 会社と自分の両方が win-win になることが重要である。**様々なバックグラウンドを持つつなぎ手を育成**することが持続的な価値共創につながる。

## <E. つなぎ手同士がつながる機会>

### ステップ⑤ つなぎ手ネットワークの充実

#### 【研究会での議論】

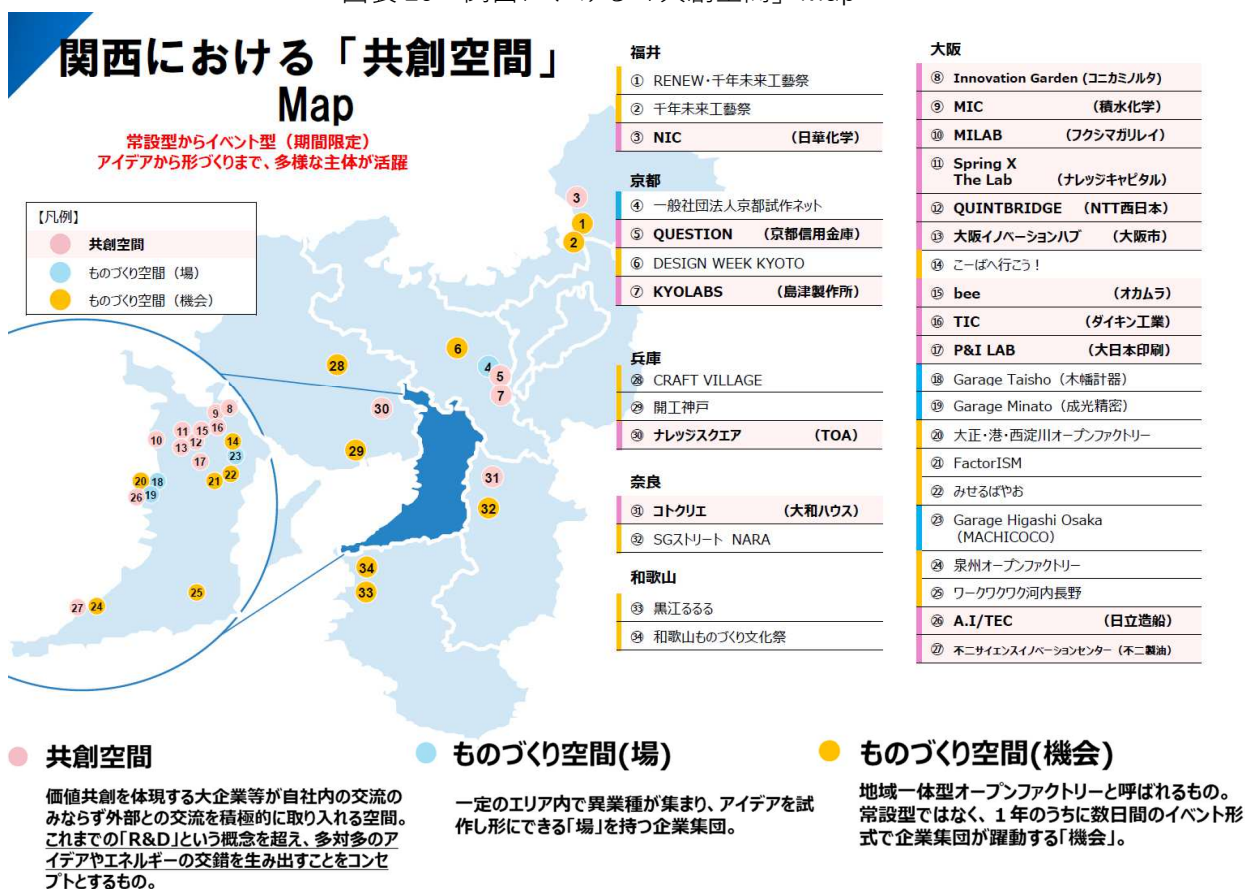
- ・ 共創活動に取り組む中で、他の共創空間の存在は知っているが、具体的な取組内容や特徴までは知らないことも多い。
- ・ 現状では、**つなぎ手の同士の顔が見えない、情報をシェアするタイミングがない**といった課題も多いだろう。それぞれの顔が見える化して、**集まるだけでも状況は大きく変わる**だろう。
- ・ まずは、**つなぎ手同士が定期的に緩くつながる機会があるとよい**。そうした「企み」も重要であり、その**積み重ねが関西の課題解決につながる**かもしれない。

以上が、つなぎ手たちが「壁」をブレイクスルーするために必要なステップとポイントであるが、さらなる価値共創の拡大に向けては、最後の「つなぎ手たちの緩やかなネットワークづくり」が肝要と考えられる。共創空間へのヒアリングの中でも他社の共創空間の存在は認知しているが、それぞれの特徴や強みについては、十分に理解が及んでいないという声も聞かれた。共創空間の可視化にとどまらず、共創活動を担うつなぎ手たちのネットワークづくりが望まれている。

### ③価値共創の加速化に向けた仮説

これまで価値共創は、企業等による共創空間とそのつなぎ手という文脈で議論をしてきたが、新たな価値を共に創るという活動は、様々な形態として存在する。ものづくり機会（例：地域一体型オープンファクトリー）やものづくり空間（例：Garage Minato、Garage Taisho、Garage Higashi Osaka）がその一例である。これらも含めて、関西一円の「共創空間」を抽出すると、常設型からイベント型（期間限定）まで多種多様な主体が活躍している。

図表 29 関西における「共創空間」Map



【出所】 各種公開情報等をもとに整理 作成

このように関西には、共創空間からオープンファクトリーまで、様々な特徴を持つ面白い取組があふれており、共創空間×ものづくり空間の連携によるイノベーション創出のポテンシャルが高いと推測される。両者の連携により、様々な「アイデア」を「カタチ」にすることで生まれるイノベーション（＝カタチイノベーション）が関西の特徴にもなり、今後の関西における価値共創のさらなる加速化に大きく寄与するものと考えられる。

#### ④価値共創の加速化に関する検討結果

前述した仮説にもとづき、価値共創加速化研究会で議論を行ったところ、共創空間×ものづくり空間の連携によるイノベーション創出については、学識者や実践者の双方から賛同を得られた。また、ものづくりというハードの部分だけでなく、ソフトとしてヒューマンウェアも重要であるという意見もあった。

#### ■関西＝ものづくりの特徴

##### 【研究会での議論】

- ・ **ものづくりの現場が多い**というのは、この会議に参加してから気づいたことであるが、それは関西の強みになるだろう。アイデアを形にできるポテンシャルも高い。
- ・ オープンファクトリーもそうだが、**関西＝ものづくりというイメージ**がある。
- ・ 関西はものづくりの担い手だという意識が強いだろう。
- ・ 関西の特徴としては、**ものづくり企業の集積と多様な共創空間の集積**があるというのは、そのとおりである。

#### ■アイデアを形にする重要性

##### 【研究会での議論】

- ・ 共創空間で議論した内容やプロセスも重要だが、そのアイデアを最終的に形にすることが重要である。**アイデアを形にしないと、理解されない可能性はある**。共創空間×ものづくり空間はアイデアを具現化できるポテンシャルがある。
- ・ アイデアを形にすることは当然重要であるが、アイデアを形にする一歩手前のステージも重要である。要は、**プロトタイプ**の製作や**ふらっと体験ができる空間も重要**である。

#### （４）価値共創加速化公開セミナーでの検証

##### ①開催概要等

本セミナーでは、日本各地で価値共創を体現しているキーパーソンが自身の取組を紹介するとともに、キーパーソン同士の対話を通して、価値共創が上手く進展する方法や関西一円に価値共創の取組を広げていくために必要な視点等を検討した。価値共創という概念に具体的イメージが持ちにくい、実際にどのようにビジネスに繋がっているのか分かりにくいという声に対して、リアルな価値共創を実感していただく機会である。

図表 30 価値共創加速化公開セミナー

|                             | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催概要                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●名称：「価値共創」が紡ぐイノベーション～「あたりまえ」をあきらめず、「もったいない」「おもしろい」を共にカタチに～</li> <li>●日時：2023年2月22日(水)14:30～17:30</li> <li>●場所：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター</li> <li>●対象：価値共創に関心のある企業、大学、支援機関、金融機関等</li> <li>●形式：リアル会場＋Youtube Live によるリアルタイム配信</li> </ul>                                                                                                                                                                        |
| プログラム                       | <p>※講演者の敬称略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●14時30分～14時35分 主催者挨拶</li> <li>●14時35分～15時00分 基調講演<br/>株式会社浜野製作所／代表取締役 浜野 慶一<br/>「ものづくりの現場」から人と社会の可能性を広げる！</li> <li>●15時00分～15時20分 特別講演1<br/>Konel.kanazawa Inc.／代表取締役 宮田 大<br/>ART、デザイン、テクノロジーで未来を実装する</li> <li>●15時20分～15時40分 特別講演2<br/>成光精密株式会社／代表取締役 高満 洋徳<br/>アイデアをすぐカタチに！カタチーイノベーション！</li> <li>●15時50分～16時55分 パネルディスカッション<br/>「価値共創」を加速化させるために</li> <li>●16時55分～17時00分 クロージング</li> </ul> |
| パネル<br>ディスカッション<br>登壇者（敬称略） | <p>【ファシリテーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●神戸大学 バリュースクール 鶴田 宏樹</li> </ul> <p>【パネリスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●株式会社日建設計 イノベーションデザインセンター 吉備 友理恵</li> <li>●株式会社浜野製作所 代表取締役 浜野 慶一</li> <li>●Konel.kanazawa Inc. 代表取締役 宮田 大</li> <li>●成光精密株式会社 代表取締役 高満 洋徳</li> </ul>                                                                                                                                                   |



## ②研究会結果の検証

研究会結果より導かれたつなぎ手たちが「壁」をブレイクスルーするために必要な5つのステップとポイントについては、各登壇者による事例発表やパネルディスカッションの内容ともおおむね合致するものであった。

### <A. ビジョンや想い>

#### ステップ① 共創活動の目的をステークホルダーと共有

##### 【セミナーでの声】

- ・ 共創空間の在り方として、最も重要な部分は、**共創活動の目的や理念が参加者と共有されている**ことである。こうしたコア部分がしっかりしていないと共創活動が上手くワークしないだろう。

### <B. つなぎ手の気質に関わるもの>

#### ステップ② つなぎ手自身が楽しむ

##### 【セミナーでの声】

- ・ 共創活動の目的（社会課題解決や町工場のプレゼンス向上等）を掲げて、様々な主体と**共創することを楽しむ気持ち**が重要である。危機感を共有しつつ、**パッションや想い**を持って、共創活動に取り組むことが大事である。

### <C. つなぎ手への客観的評価（＝内外からの見え方）>

#### ステップ③ つなぎ手の活動への理解・インセンティブ・社外肩書

##### 【セミナーでの声】

※この点はセミナーにおいて、直接的な言及はなかったが、つなぎ手の多くが社内外で様々な肩書やポジションを持ちながら、新しい活動を仕掛けている。周囲から理解も得ながら活動を展開していることがうかがえる。

### <D. 所属組織での共創活動の加速>

#### ステップ④ 多様なつなぎ手の育成

##### 【セミナーでの声】

- ・ 共創空間におけるつなぎ手の存在は重要である。止まっている状態からギアを入れて、**物事を動かすためにはつなぎ手の存在が不可欠**である。
- ・ つなぎ手は重要だが、ずっと同じつなぎ手が活動し続けるよりも、**新たなつなぎ手をどんどん生み出していく**ことも重要である。**つなぎ手の後継者を育成**することも大事である。

## <E. つなぎ手同士がつながる機会>

### ステップ⑤ つなぎ手ネットワークの充実

#### 【セミナーでの声】

- ・ 関西には**多くの共創空間が存在**する。そうした共創空間が各地に存在することで、参加する側も共創活動に参加しやすくなる。
- ・ 関西一円に共創活動を広げていくためには、個々の共創空間での活動も重要だが、それらが可視化されて、**広域的につながり連携すること**も重要になる。関西には多数の共創空間が存在する先進地であるので、それぞれが強みを活かした連携により、その効果も大きくなるのではないか。

### ③関西での価値共創の拡大に向けて（パネルディスカッション）

パネルディスカッションの後半では、関西での価値共創の拡大に向けて必要となる視点について議論を行った。関西にはすでに多様な共創空間が存在することから、これらが有機的につながること、関西らしい価値共創の在り方を模索していく必要があるという声が多かった。

また、関西にはものづくりに特化した共創空間が多く存在することから、共創活動で生まれた多様なアイデアを形にできる（＝カタチイノベーション）という強みが存在することも改めて指摘されている。

### ■関西における価値共創の特徴・強み

#### 【セミナーでの声】

- ・ 関西にはオープンな共創空間が多い印象を受ける。関東にも大手企業による共創空間が多数存在するが、関西には大手企業から中小企業、金融機関等まで様々な主体が共創空間を設置している。
- ・ また、関西には地域一体型オープンファクトリーをはじめ、共創を生み出す面白い仕掛けがたくさん存在する。多様な共創活動の類型があることが関西の特徴かもしれない。
- ・ 関西では、様々な共創活動を通じて、ものづくり中小企業による連携も進んでいる。様々なアイデアをカタチにできることが、関西の面白さだろう。

図表 31 パネルディスカッションの様子



## （５）小括

今年度に実施した価値共創加速化研究会とセミナーにより、価値共創が上手く進展・加速するためには、つなぎ手の存在が極めて重要であることが再確認されるとともに、つなぎ手が自由に活動しその能力を最大限発揮するためには、社内外において様々な環境整備が必要であることが分かった。

社内においては、価値共創という取組の位置づけやつなぎ手への理解、つなぎ手に対するインセンティブや評価といった視点が重要であり、一方、社外との関係においては、各地のつなぎ手が緩やかにつながる連携機会の重要性が明らかになった。つなぎ手同士は個人的につながりを有しているケースが多いものの、それぞれの共創空間の特徴や強み等を十分に熟知しているわけではないため、相互に補完できる関係づくりのためにも、つなぎ手同士の広域的なネットワークづくりは重要である。

すでに関西においては、大手企業から中小企業、金融機関等に至るまで様々な主体が共創空間を設置している。常設的な共創空間ではないが、地域一体型オープンファクトリーをはじめとする「共創機会」の存在も関西における共創活動の奥深さを物語っており、課題の内容や難易度に応じて、様々な空間や機会を使い分けることも可能である。

また、関西らしい価値共創の在り方を考えた場合、ものづくりというキーワードは関西を語る上で不可欠なものであり、アイデアを形にできる（＝カタチイノベーション）という点に関西の特徴や強みがあることが分かった。各地の共創空間で生まれた様々なアイデアについて、こうした関西らしい共創活動のエコシステムの中で形にしていけることが今後重要になってくる。

### 第3章 今後の展開に向けて

以上の調査・検証を通して、改めて要点を取りまとめると以下のとおりである。

- ▶**共創活動に取り組むコミュニティの生まれ方が変化しており**、従来のセミナーやシンポジウムの出会い以上に、「招待者」を中心とした人脈づくりや他者アイデアの共有、新たな共創コミュニティの創出などが濃厚なコミュニティ形成に寄与する。
- ▶コミュニティの誕生の時点においては強いリーダーシップが寄与するが、継続や拡張の観点からは、互いに関係性がイーブンで、目的が共有されているサードプレイスへと変化していくことが重要。
- ▶**関西において、共創活動をより促進していく（加速化させる）ために、共創空間同士が繋がる機会や仕組みが期待されている。**

これらを踏まえ、関西における価値共創における今後の展開を検討した結果、要約すると以下の示唆を得ることが出来た。

#### （１）「つなぎ手を繋ぐ『つなぎ手』の在り方

－共創活動を加速化させるために共創空間同士を繋ぐことが求められている一方で、「とりあえず繋げれば良い」のではなく「つなぎ手」同士の相性やタイミングを見きわめられる「つなぎ手」の存在が肝要となる。これは価値共創イベント内において有識者から「経済産業局や自治体職員」がこの立ち位置になり得るものではないかとの示唆もあったことから、「つなぎ手の『つなぎ手』の在り方も今後注目すべきポイントであると思料される。

#### （２）「つなぎ手」の可視化の必要性

－共創活動を加速化させるために共創空間同士を繋ぐことが求められている中、その共創空間の特徴、ひいてはその共創空間を活性化させているつなぎ手がどのような人物なのかを可視化することで、媒介を要しない共創空間同士の繋がりに寄与すると思料される。

2025 年の大阪・関西万博は、まさに「未来社会の実験場」である。こうしたチャンスの間近に控える関西においては、本調査完了後以降においても、各地で新たな疑似DAO、価値共創コミュニティが創出されていくことが予想される。

新たに取り組みを開始する主体にとって、また、そうした主体を支援する行政、支援機関の皆様が取組を検討・実施する上でも、本調査報告書が参考になれば幸いである。

## 資料編

---

本事業で実施した各種調査等の概要は以下のとおりである。

### 第1章 【共創活動創出事業】共創活動創出研究会及びイベントによる検証

#### （1）先行事例等の調査

##### ①デスクリサーチ

##### 1) 活用した主なWEBサイト

- ・株式会社テイラーワークス  
<https://tailorworks.com/community/>  
<https://tailorworks.co.jp/>
- ・IoT ビジネス共創ラボ コミッティ会社／関西 IoT ビジネス共創ラボ  
<https://iotbizlabo.connpass.com/>
- ・関西広域連合／関西 SDGs プラットフォーム  
<https://kansai-sdgs-platform.jp/subcommittee/>
- ・バイオコミュニティ関西／バイオコミュニティ関西 (Biock)  
<https://biock.jp/>
- ・流通科学大学／社会共創プログラム  
<https://www.ums.ac.jp/yumenotane/bring-up/social-co-creation/>
- ・近畿大学／共創工房  
<https://act.kindai.ac.jp/projects/61f1fc46348e80fba2a3f45cdafda8efe5c889dd.html>
- ・一般社団法人地域価値共創センター  
<https://coc-or.jp/>
- ・一般社団法人 コード・フォー・ジャパン／シビックテックプロジェクト  
<https://www.code4japan.org/>
- ・特定非営利活動法人ミラツク  
<https://emerging-future.org/>
- ・株式会社新産業文化創出研究所／MICE イノベーション研究会  
<https://mice-innovation.com/>
- ・株式会社新産業文化創出研究所／空想商品開発研究所  
<https://www.kuso-lab.jp/>
- ・078KOBE 実行研究会／078KOBE  
<https://078kobe.jp/>
- ・Future Center Alliance Japan  
<https://futurecenteralliance-japan.org/>
- ・MICE イノベーション研究会／万博サクヤヒメ会議（共創チャレンジ）  
<https://www.osaka.cci.or.jp/event/seminar/202204/D27220608052.html>

- <https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/718>
- OLEA／OLEA（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/719>
  - 阪南市／阪南市×Adecco Group（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/717>
  - 大阪市此花区役所、株式会社 JR 西日本イノベーションズ／空飛ぶクルマで此花区の未来社会をデザイン（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/699>
  - ORAM 株式会社／働くクルマの遠隔化で新しい働き方“遠隔操縦”を実現する Project（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/689>
  - プラフリー株式会社／アースクリエイト（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/682>
  - チーム・アスカード/株式会社マグネット／未来社会の安全・安心を影で支える「私が、わたしで、ある証」（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/677>
  - タカラベルモント株式会社/みずほ銀行/西日本電信電話株式会社/INPIT 関西/大阪産業局など／女性起業家応援プロジェクト「DISCOVER MYSELF」PATRON make beautiful things…（共創チャレンジ）  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/236>
  - 株式会社 MZ Cryptos／MZ CLUB  
<https://www.mz-club.io/>
  - MediaDAO ファウンダーかねりん／MediaDAO  
<https://media-dao.net/>
  - 福袋プロジェクトの総括  
[https://mirror.xyz/%E5%90%9B%E3%81%AE%E5%A4%8F%E3%81%AE%E7%B5%82%E3%82%8F%E3%82%8A.eth/XyrwOrb1Wk\\_Dd8s8iiL-JCIXKmevmWVGC3M5i5D2QPc](https://mirror.xyz/%E5%90%9B%E3%81%AE%E5%A4%8F%E3%81%AE%E7%B5%82%E3%82%8F%E3%82%8A.eth/XyrwOrb1Wk_Dd8s8iiL-JCIXKmevmWVGC3M5i5D2QPc)
  - Kinomis, Inc.／DeStore  
<https://www.desto.re/>  
<https://www.neweconomy.jp/posts/202367>  
<https://thebridge.jp/2022/03/destore-fundraising>  
<https://metaversefor.me/dao/web3-dao-destore/>
  - 「Nounders」 =Nouns の創業に携わった 10 人の創業者／Nouns  
<https://nouns.wtf/>
  - 株式会社ガイアックス&NP0 法人ドットジェイピー／ドットジェイピーDAO 化プロジェクト  
<https://www.gaiax.co.jp/>  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/e745cc18c5574d92fa4a8ef13931b5acc50005f5>

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000500.000003955.html>  
<https://www.dot-jp.or.jp/>  
 ・株式会社 電通グループ／電通グループ、川崎の環境 DAO 「つながるグループ」  
<https://kyodonewsprwire.jp/release/202207013310>  
<https://www.group.dentsu.com/jp/news/release/pdf-cms/2022036-0701.pdf>  
 ・株式会社文化資本創研／デジタル・オープンイノベーション・キャンパス (Digital Open Innovation Campus)  
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000003.000106262.html>  
<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/609?country>  
<https://bunkashihon.jp>  
 ・株式会社フィナンシェ／KAMITSUBAKI DAO  
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000225.000042665.html>  
[https://financie.jp/users/uc\\_kamitsubaki/cards](https://financie.jp/users/uc_kamitsubaki/cards)  
<https://kamitsubaki.jp/>  
 ・株式会社第一生命経済研究所  
<https://www.dlri.co.jp/report/ld/193839.html>  
 ・Discord (SNS) 上／Ninja DAO  
<https://www.ninja-dao.com/>  
 ・山古志住民会議／山古志村 DAO  
<https://nishikigoi.on.fleek.co/>  
<https://discord.gg/7wnuGvjGJT>  
 ・Discord (SNS) 上／和組 DAO  
<https://wagumi.xyz/>  
 ・巻組／Roopt 神楽坂 DAO  
<https://roopt.jp/>  
 ・Henkaku Discrod community  
<https://community.henkaku.org/ja>  
 ・株式会社スペースデータ／企業活動の DAO 化  
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000007.000080352.html>  
<https://spacedata.ai/>

## ②ヒアリング調査

ヒアリング先：特定非営利活動法人ミラツク

### 【主なヒアリング項目】

- ・取組背景や現在の活動状況
- ・取組や活動の特徴
- ・課題や考えられる対応策・今後必要なリソースなど

## （２）共創活動創出研究会による検証

### ①目的

先行事例調査等を踏まえ下記３点について、共創活動創出に必要な要素等を明らかにすること。

- １）共創活動実施方法の研究
- ２）共創活動を創出するイベントの設計
- ３）共創活動支援機関の連携に関する研究

### ②委員一覧（敬称略）

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 市橋 直樹  | 西日本電信電話株式会社（NTT西日本）イノベーション戦略室長   |
| 岡本 栄理  | 株式会社オカムラ関西支社 マーケティング部 マーケティング推進室 |
| 竹林 一   | 京都大学経営管理大学院客員教授                  |
| 田崎 友紀子 | 株式会社スーパーステーション取締役副社長             |
| 服部 滋樹  | graf 代表／京都芸術大学教授                 |
| 廣常 啓一  | 株式会社新産業文化創出研究所代表取締役所長            |
| 藤井 信忠  | 神戸大学 DX・情報統括本部情報基盤センター教授         |

### ③開催概要

#### １）第１回

- ・日時：令和４年１１月２１日(月)10：00～12：00
- ・会場：ナレッジサロン「プロジェクトルーム G」（グランフロント大阪北館 7F）
- ・次第：

#### １．挨拶

- ２．配布資料及び本日の流れについて  
事務局より説明

#### ３．議 事

- （１）参加者の自己紹介

- （２）事務局説明

- １）本事業の主旨・概要

- ２）新たな共創活動の方法論について

- 新形態の組織構造提案
- 共創コミュニティと刺さる旗印考
- ビジネス創出技法

- ３）新たな共創活動創出イベントの実施について

- 実施する共創ラボイベントの概要（コミュニティと新ビジネス提案）

- （３）ディスカッション（論点）

論点１）新たな共創活動の方法論について

論点２）万博を契機とした新たな共創活動創出イベントについて

- 提案すべき新ビジネス発想
- 招聘すべき人材について
- イベントの工夫について
- 万博を契機とした新たなコミュニティの形成について

#### ４．閉 会

次回研究会までの依頼事項等

## 2) 第2回

・日時：令和4年12月21日(水)13:00～15:00

・会場：近畿経済産業局 大阪合同庁舎 第1別館 303号室

・次第：

1. 配布資料及び本日の流れについて

2. 議 事

(1) 事務局説明

拡張 EXPO 共創ラボ（案）

ジェネシス研究会万博「ソフトレガシー」を創る会

（事業主旨の確認と研究会イベントの実施について）

(2) ディスカッション（論点）

1. 既存活動・支援機能等の交流体制構築の可能性

2. ユニークな発想・アイデア提示、新コミュニティ提案の可能性

（含、共同発起人）

3. 研究会イベント参加者のイメージとその候補

(3) その他

最終報告書のイメージと委員名の取り扱いについて

3. 閉 会

依頼事項等最終確認

## 第2章 【共創活動加速化事業】価値共創加速化研究会及びセミナーによる検証

### （１）先行研究及び事例調査等

#### ①調査目的

全国各地における先駆的な価値共創の取組をデスクリサーチ等で発掘し、ヒアリング先候補を検討する基礎材料とすること。

#### ②活用した調査レポート・文献等

[レポート等]

- ・近畿経済産業局「令和3年度企業による価値共創事業の実態調査報告書」

[WEB サイト]

- ・株式会社浜野製作所 ホームページ  
<https://hamano-products.co.jp/>
- ・株式会社 Point 0  
<https://www.point0.co.jp/>
- ・京都信用金庫 QUESTION ホームページ  
<https://question.kyoto-shinkin.co.jp/>
- ・DNP プラザ（大日本印刷株式会社）ホームページ  
<https://dnp-plaza.jp/index.html>

### （２）ヒアリング調査概要

#### ①調査目的

全国各地における先駆的な価値共創の取組を発掘し、これまでの事業におけるタイムラインを明らかにし、その価値共創空間に存在する「つなぎ手」目線で整理を行うこと。

#### ②主なヒアリング項目

- ・共創空間の概要
- ・共創空間を立ち上げた背景、立ち上げ時の想い
- ・共創空間での共創イベントや活動状況
- ・これまでの活動で生じた課題＋それをどうクリアしてきたか？
- ・継続する共創空間のポイント（※意見交換）

#### ③ヒアリング調査先

- ・京都信用金庫 QUESTION
- ・株式会社浜野製作所
- ・株式会社 Point 0
- ・DNP プラザ（大日本印刷株式会社）

### （３）価値共創加速化研究会

#### ①目的

ヒアリング調査等をふまえて、「価値共創活動」を行う主体が乗り越えなければならぬ「壁」や加速化の「過程」を明らかにすること。

#### ②委員一覧（敬称略）

|            |                                  |
|------------|----------------------------------|
| 鶴田 宏樹      | 神戸大学バリュースクール准教授 ※座長              |
| 岡本 栄理      | 株式会社オカムラ 関西支社マーケティング部 マーケティング推進室 |
| 及部 一堯      | 西日本電信電話株式会社 イノベーション戦略室           |
| 吉備 友理恵     | 株式会社日建設計イノベーションセンター              |
| Xin Suzuki | GONENGO 合同会社 最高経営責任者             |
| 高満 洋徳      | 成光精密株式会社 代表取締役                   |
| 牧野 成将      | 株式会社 Monozukuri Ventures 代表取締役   |

#### ③開催概要

- ・日時：令和４年１２月６日（火）９：３０～１２：００
- ・会場：大阪合同庁舎（近畿経済産業局）第二別館 ３ＦミーティングルームＢ
- ・次第：
  - １．あいさつ
  - ２．配布資料及び本日の流れについて
  - ３．議 事
    - （１）参加者の自己紹介
    - （２）関西における価値共創の未来とは？

【論点１】価値共創における「壁」の検証  
【論点２】価値共創における「加速化」の検討  
【総括】本日の研究会の総括（座長より）

  - （３）閉 会



## 謝辞

本調査を実施するにあたり、多くの方々にご協力をいただきました。ここに、心より感謝の意を表します。

「令和4年度大阪・関西万博を契機とした価値共創活動促進事業」

(拡張 EXPO 共創ラボ事業)

調 査 報 告 書

令和5年3月

経済産業省 近畿経済産業局

(調査委託機関：株式会社 地域計画建築研究所)

## 二次利用未承諾リスト

報告書の題名

令和4年度「大阪・関西万博を契機とした価値共創活動促進事業」（拡張EXPO共創ラボ事業）報告書

委託事業名

令和4年度「大阪・関西万博を契機とした価値共創活動促進事業」（拡張EXP0共創ラボ事業）

受注事業者名

株式会社地域計画建築研究所

[illegible]